医史学関係文献目録（五十音順）

昭和六十二（一九八七）年

単行本

『ボタニカルアートの世界』朝日新聞社編　朝日新聞社
『日本洋学史の研究Ⅶ』有坂隆道編　創元社出版
『わたしの看護昭和史』飯塚スヅ　日本看護協会出版会
『伊勢崎佐波医師会史』上・下　伊勢崎佐波医師会
『今村九一郎伝』今村雄一　自家版
『蘭学資料研究』復刻版　附巻　解説・総目次・総索引編　緒方富雄監修、杉本勲解説　龍溪書舎
『大阪市立桃山病院百年史』大阪市立桃山病院　大阪都市協会
『大阪医師会史年表』第三編（昭和五十二～六十二年）新制医師会創立四〇周年記念　大阪府医師会
『医者たちの八月十五日』大阪府保険医協会　清風堂書店出版部
『近江の国野洲の中世』大谷雅彦編著　野洲町史編纂室
『医学書誌論考』大鳥蘭三郎　思文閣出版
『岡山大学所蔵、大原農書文庫・古医書集成目録』岡山大学附属図書館編　岡山大学附属図書館
『江戸東京学事典』小木新造他編（宗田一ら執筆）三省堂
『中国医学の誕生』加納喜光　東京大学出版会
『見えざる病原体を追って　ウイルス学史序論』　A・P・ウォーターソン、L・ウイルキンソン共著　川出由己、松山東平、松山雅子共訳　吉岡書店
『北里柴三郎記念館』学校法人北里学園
『仏教医学物語』上・下　川田洋一　第三文明社（レグルス文庫）
『日蘭のかけ橋七』関西日蘭協会　関西日蘭協会事務局
『生物学史論集』木村陽二郎　八坂書房
『築地明石町今昔』北川千秋　聖路加国際病院礼拝堂委員会
『医史学の体育史的観察（五）―近代社会成立期における一私立病院設立にみる漢方医学の養生思想と西欧医学の衛生思想について―』木村昭光他二名　日体育会三八回大会号（A）八一
『明治初期御雇医師夫妻の生活』トスカ・ヘゼキール編著　北村智明、小関恒雄訳　玄同社
『チトクロムと細胞呼吸―電子伝達系確立への道―』上・下　D・ケイリン　学会出版センター
『神戸はじめ物語展』神戸市立博物館編　神戸市立博物館
『意釈黄帝内経太素』（第一巻～三巻）小曽戸丈夫　築地書館
『榊俶先生顕彰記念誌―東京大学医学部精神医学教室開講百年に因んで―』榊俶先生顕彰会（代表原田憲一）　榊俶先生顕彰会
『明治文化と西洋人―重久篤太郎著作集―』重久篤太郎　思文閣出版
『実学史研究Ⅳ』実学資料研究会編　思文閣出版
『ザ・ヤトイ―お雇い外国人の総合的研究―』嶋田正他編　思文閣出版
『橋本左内の科学思想』（白崎昭一郎先生講演記録誌）白崎昭一

郎　ふくい藤田美術館
『解体新書の時代』杉本つとむ　早稲田大学出版部
『日本痘苗史序説』添川正夫　近代出版
『無意識Ⅲ』アンリ・エー編　大東祥孝、濱中淑彦、西口芳伯、兼本浩祐訳　大橋博司監訳　金剛出版
『学校伝染病発生状況調査—小児期感染症十年の経過（一九七六～一九八六）—』高倉巌　神奈川県秦野伊勢原医師会
『幕末明治東三河・医家の動静』（附、江戸明治時代の医療器）竹内孝一
『防長医家遺墨集』（山口県医師会創立百周年記念）田中助一　山口県医師会
"Das Reizleitungssystem des Säugetierherzens" (Jena, 1906)（復刻）田原淳　田原淳原著復刻会
『驀地（まっしぐら）』東京女子医学専門学校昭和二十二年卒業二二会
『野口英世』イサベル・R・プレセット著　中井久夫・枡矢好弘訳　星和書店
『小関三英』半谷二郎　旺史社
『西尾幡豆医師会史』（第三巻）西尾幡豆医師会編　同医師会
『北陸英学史研究』（第一輯）日本英学史学会北陸支部
『日本薬局方百年史』日本薬局方百年史編集委員会編　日本公定書協会
『日本整形外科学会六〇年の歩み（第六〇回日本整形外科学会記念）』『日本整形外科学会六〇年の歩み』編集委員会編
第六〇回日本整形外科学会会長田島達也
『講座二一世紀へ向けての医学と医療（一）医の倫理』唄孝一編　日本評論社
『適塾と長与専斎—衛生学と松香私志—』伴忠康　創元社
『大野藩洋学館旧蔵のフランス系蔵書展示目録』福井医科大学附属図書館編　福井医科大学附属図書館
『眼科学史の窓』福島義一　『眼科学史の窓』出版会
『麻酔科の周辺』松木明知　克誠堂出版
"On the inhalation of the vapour of ether in surgical operations, London, 1847)（覆刻）John Snow 著　松木明知 解説　松木明知
『鍼灸古典入門』丸山敏秋　思文閣出版
『ヘボンの生涯と日本語』望月洋子　新潮社
『因伯剛考—トイレとその今昔—』森納　自家版
『知命堂病院附属産婆看護婦養成所史』森川政一　知命堂病院
『医歯薬史資料図鑑』谷津三雄　医歯薬出版
『江戸諸国産物帳—丹羽正伯の人と仕事—』安田健　晶文社
『考えることの愉しさ』山田致知　自家版
『ユネスコ東アジア文化研究センター　一九六一～一九八六要覧』ユネスコ東アジア文化センター（東洋文庫内）
『解剖の時間—瞬間と永遠の描画史—』養老孟司、布施英利　哲学書房
『F・ベアト幕末日本写真集』横浜開港資料館編　同資料館
『日本人種論争の幕あけ—モースと大森貝塚—』吉岡郁夫　共立

出版
『本草書の研究』渡邊幸三　武田科学振興財団杏雨書屋
"Thomas Sydenham" Winterdown Books

医学切手・書画

「ローベルト・コッホ」石原理年『醫譚』(七二) 一四
「光田健輔」石原理年『醫譚』(七二) 一四
「旧済生館本館」石原理年『醫譚』(七二) 二七
「ウトレヒト大学創設三五〇年記念切手をめぐって—ドイツハウスの切手について—」石田純郎 Kansai Letter (三七) 一～三
「シーボルトの"NIPPON"にある出島図」緒方富雄『けんさ』一七 (三) 一七～二〇

医学教育

「西洋医学教育システム受容の歴史」石田純郎、ハルム・ボイケルス『医譚』(七二) 一五～二二
「臨床医学教育の開始より三五〇周年」石田純郎『科学医学資料研究』(一五二) 五～九
「医学教育の流れ」酒井シヅ『公衆衛生』五一 (七) 四四二～四四七
「医学教育史—開学百拾年私立医学校済生学舎史—」(第一部)(第二部と名簿) 石川清博『埼玉医師会誌』(四四三) 二四～二八、(四四四) 一七～二四
「日本の作業療法教育の歴史」鈴木明子『作業療法』六 (一) 二九～三五
「医学教育の近代史」酒井シヅ、馬場一雄『小児内科』一九 (八) 一一九五～一二〇一
「外国人のみた明治十年頃の日本の医学校 上・下—東京大学医学部の場合、愛知医学校の場合—」小関恒雄、北村智明、H・フィアンデン『日本医事新報』(三二八七) 五九～六二、(三二八八) 六六～六九
「東大医学部紛争 (一)～(一六)」山本俊一『日本医事新報』(三二九七) 五九～六二、(三二九八) 六一～六四、(三二九九) 六一～六三、(三三〇三) 七一～七三、(三三〇四) 六五～六九、(三三〇五) 六七～六九、(三三〇九) 六七～七〇、(三三一〇) 六九～七〇、(三三一一) 六七～六九、(三三一二) 六六～六九、(三三一三) 六七～七〇、(三三一四) 六一～六三、(三三一五) 六八～七〇、(三三二〇) 六八～七〇、(三三二一) 六七～七〇、(三三二二) 六七～六九
「オランダ独立戦争とライデン大学の創立」石用純郎『日本医事新報』(三二九八) 五九～六一
「日用百科全書 第三拾七編—就学案内 (明治三十二年四月刊)について」北嶋まつ子、武藤優子、谷津三雄、滝口久『日本歯科医史学会々誌』一四 (一) 一二～一三
「歯科医学と慶應義塾」鈴木邦夫、鶴木隆、鈴木雄士、村田基生、野本種邦『日本歯科医史学会々誌』一四 (一) 三三～三四
「東京歯科医学専門学校の学制・教科書・教授陣等について」長谷川正康、森山徳長、石川達也、高添一郎、金竹哲也『日本歯科医史学会々誌』一四 (一) 四二～四三
「東京歯科医学院の学制・教授陣・教科書等について」長谷川正

康、森山徳長、石川達也、高添一郎『日本歯科医史学会々誌』一四（二）八九～九六
「東京歯科医学院講義録第一輯の書誌学」森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（二）九七～一〇一
「日本における近代医学教育の始まり」酒井シヅ BIO medica 二（一〇）一〇四九～一〇五二
「明治三年大坂医学校記念写真　大坂本町橋西詰　中邨雅朝写」岩治勇一『福井県医師会だより』（三一三）一六～一七
「近代前期における公立医学校の消長とその背景」丸山知良『文書館だより』（八）一～三
「旧藩学校沿革調について」寺畑喜朔『北陸医史』八（一）一二～一三
「金沢医学館における体操教育について」木村昭光『北陸医史』八（一）一四～一八
「医学部史料室紹介（三）―帝大への道―」島岡真『名大医学部学友時報』（四四五）九～一一
「医学部史料室紹介―近代日本の一面―」島岡真『名大医学部学友時報』（四四八）二～四

医学用語

「医学英語の論文をめぐって」外山敏夫『あいみっく』八（三）一七～二〇
「医学用語（解剖学用語）について」酒井　恒『あいみっく』八（三）二一～二七
「日本医学用語の特殊性と将来の問題」伊藤隆太『あいみっく』八（三）二八～三三
「医学用語の英語と日本語　雑感」向井万起男『あいみっく』八（三）三四～三五
「日本における精神病学用語の変遷」岡田靖雄『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信（一〇）』付録
「ことばの由来　語源瑣談―毒と薬―」岩月賢一 JOHNS 三（一）一一二～一一四
「ことばの由来　眩暈・耳鳴に関する言葉の由来」Hugh E. Wilkinson 伊藤裕之訳 JOHNS 三（三）四八二～四八三
「ことばの由来　Kartagener's Syndrome」鈴木安恒 JOHNS 三（五）七六二～七六四
「ことばの由来　醫とその周辺の字義」飯田収 JOHNS 三（七）一〇五二～一〇五三
「ことばの由来　語源瑣談―呼吸と循環―」岩月賢一 JOHNS 三（九）一四四四～一四四六
「ことばの由来　医師の語源」Hugh E. Wilkinson JOHNS 三（一一）一七二二～一七二四
「日本における精神病学用語の変遷」岡田靖雄『日本医史学雑誌』三三（一）八二～八三
「『五十二病方』中の「隋」の字に関する考察と解明」趙有臣『日本医史学雑誌』三三（二）二一八～二二二
「江戸川柳「屁」（一）～（四）」山本成之助『日本医事新報』（三二八〇）六三～六五、（三二八一）六四～六六、（三二八三）六四～六六、（三二八四）六八～七九

「医学用語事始　ターヘル・アナトミアと解体新書」酒井恒『日本病院会誌』**三四**（二）二一～二九、『メディカルレコード』**一二**（三）一五～二三
「病名の由来　医原病」酒井シヅ Medical Technology **一五**（三）二七九
「病名の由来　淋病」酒井シヅ Medical Technology **一五**（五）四四五
「病名の由来　ペスト」酒井シヅ Medical Technology **一五**（八）八一〇
「病名の由来　梅毒」酒井シヅ Medical Technology **一五**（九）九〇五
「病名の由来　ジフテリア」酒井シヅ Medical Technology **一五**（一一）一〇八〇
「病名の由来　赤痢」　酒井シヅ　Medical Technology **一五**（一二）一一五八

医師会・学会

「日本医師会小史（第三八回）昭和三年の官公立大学附属医院の診療報酬」青柳精一『日本医師会雑誌』　**九七**（一）一二三～一二六
「日本医師会小史（第三九回）わが国初の「診療方針」」青柳精一『日本医師会雑誌』**九七**（三）四八七～四八九
「日本医師会小史（第四〇回～四四回）医療の社会化の流れと日本医師会（その一）～（その五）」青柳精一　『日本医師会雑誌』**九七**（五）九一七～九二〇、**九八**（一）一〇五～一〇七、**九八**（三）四八八～四九〇、**九八**（五）八二八～八三〇、**九八**（七）一一四八～一一五一
「日本医師会小史（第四五回）わが国初の医師会病院―東京府医師会下谷病院―」青柳精一『日本医師会雑誌』**九八**（九）一五一二～一五一四
「日本医師会小史（第四六回）眉をひそめる医業広告の横行」青柳精一『日本医師会雑誌』**九八**（一二）一九〇七～一九一〇
「学会記　医史学会」　岡田靖雄　『日本医事新報』（三二九六）四九～五九
「榊俶先生精神病学開講百年を記念して」岡田靖雄『日本医事新報』（三三〇七）五九～六一
「第一回国際中医腫瘍研究会に出席して」室賀昭三『漢方の臨牀』**三四**（一二）九八三
「第三回日本医学会にみられる医科分科の内容」渋谷鉱、村木春長、渋谷幸男、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』**一四**（一）四四～四五
「大日本歯科医師大会会誌について（第一報）～（第二報）」谷津三雄、石橋肇、金子賢司、新国俊彦『日本歯科医史学会々誌』**一四**（一）四八～四九、**一四**（一）四九～五〇
「大日本歯科医師会々誌について（第一報　大会記事について）、（第二報　特別講演について）」谷津三雄、石橋肇、金子賢司、新国俊彦『日本歯科医史学会々誌』**一四**（二）一〇六～一一〇、**一四**（二）一一一～一一五
「日本消化器外科学会の発足について」中山恒明『日本消化器外

科学会雑誌』二〇（六）一二〇五
「日本心臓血管外科学会二五年のあゆみ」三枝正裕『日本心臓血管外科学会雑誌』一六（五）三一七～三三〇

医史学一般

「Allgemeine Poliklinik ウィーン医学の一側面」松下正明『科学医学資料研究』（一五四）一～七
「Narrenthurm（狂人の塔）ウィーン医学の一側面」松下正明『科学医学資料研究』（一六二）一～四
「薬物学から物産研究へ—日本の本草学—」矢部一郎『週刊朝日百科　日本の歴史』八二（六一〇）一三二～一三六
「中国医術と西洋医術—解剖事始」杉本つとむ『週刊朝日百科日本の歴史』八三（六一〇）一三七
「古代インドの医療と現代日本の医療」杉田暉道『日本医史学雑誌』三三（二）二三六
「天文方の蘭学事始」吉田　忠『日本医史学雑誌』三三（二）二四五
「長崎医学伝習の再検討」沼倉延幸『日本医史学雑誌』三三（二）二四六～二四七
「明治初期東京大学医学部卒業生動静一覧（一）」小関恒雄『日本医史学雑誌』三三（三）三一七～三二七
「現代医学の歴史的座標—その明日に向けて—」川喜田愛郎『日本医史学雑誌』三三（三）三三四～三五三
「明治前半期欧州医学留学生について—東大医学部第一回欧州留学生新藤二郎の場合—」新実藤昭『日本医史学雑誌』三三（四）四九三～五〇六
「世界の医療文化史（四三）～（五二）四　転換の世紀」宗田一 Pharma Medica 五（一）一三四～一三九、五（二）一三〇～一三五、五（三）一二九～一三二、五（四）一〇六～一一一、五（五）一三二～一三六、五（六）一二四～一二八、五（七）一八一～一八五、五（八）一二六～一三〇、五（九）一七五～一八二、五（一〇）一五〇～一五五
「世界の医療文化史（五三）五　興隆の世紀」宗田一 Pharma Medica 五（一一）一六四～一七〇
「明治二年の御医師名列について」寺畑喜朔『北陸医史』八（一）九～一一
「医学史物語（日本篇）本邦初渡来の医学をめぐって」山本徳子 Medical Companion 七（一）二九一～二九二
「医学史物語（中国篇）医家と病家へのいましめ」山本徳子 Medical Companion 七（三）五二三～五二四

医療器械

「水銀体温計の歴史」馬場一雄、伊藤竜治『小児内科』一九（一）一一～一一八
「医科・歯科器械カタログの変遷」谷津三雄『日本医史学雑誌』三三（一）一〇五～一〇七
「日本最初の医科器械カタログ」谷津三雄、門平光信、渡辺有子、中野浩嗣、小池陽一郎『日本歯科医史学会々誌』一三（四）二〇二～二〇五
「第五回内国勧業博覧会の歯科出品物—歯科器材について—

（第一報、第二報）」大橋正敬、西山実、仁科真佐秀、広瀬英晴、飯島清人、深瀬康公『日本歯科医史学会々誌』一四（二）一一六～一二八、一四（二）一二九～一三九
「内視鏡の歴史（一）～（三）」多賀須幸男 BIO medica 二（五）四九六～四九八、二（六）六〇三～六〇六、二（七）七〇八～七一二
「笠原白翁所用写真機について」北村二朗、遠藤正治『慈斎研究会だより』（三七）六～七

医療制度史・医療史

「長崎医療社会事業史」中西啓『長崎県医療社会事業協会会報』
「明治二十年県令による医士組合の設立について」青木富士弥『長野医会誌』一七（一）七
「日本医療団について」佐久間温巳『日本医史学雑誌』三三（一）一一〇～一一二
「日本脳神経外科学会認定医制度」北村勝俊『日本外科学会雑誌』八八（七）七九七～八〇一
「診療報酬物語（二八）―医師法の制定と各種団体の動き―（その五）」青柳精一『ばんぶう』（六七）二一八～二二〇
「診療報酬物語（二九）―医療界待望の「医師法」制定さる―」青柳精一『ばんぶう』（六八）一五六～一五八
「診療報酬物語（三〇）―官僚統制色の濃い医師会規則―」青柳精一『ばんぶう』（六九）一七八～一八〇
「診療報酬物語（三一）―難航した「規約」づくり　横浜市医師会の場合―」青柳精一『ばんぶう』（七〇）一七八～一八〇
「診療報酬物語（三二）―明治医会の医師報酬規定草案―」青柳精一『ばんぶう』（七一）一七八～一八〇
「診療報酬物語（三三）―現代医療に無縁だった下層労働者―」青柳精一『ばんぶう』（七二）一七〇～一七二
「診療報酬物語（三四）―学歴差が生んだ医師の収入格差―」青柳精一『ばんぶう』（七三）一七〇～一七二
「診療報酬物語（三五）―済生会の創設と慈恵医療―」青柳精一『ばんぶう』（七四）一七八～一八〇
「診療報酬物語（三六）―社団法人「実費診療所」の開設―」青柳精一『ばんぶう』（七五）一五二～一五四
「診療報酬物語（三七）―社団法人実費診療所の料会規定―」青柳精一『ばんぶう』（七六）一四〇～一四二
「診療報酬物語（三八）―実費診療所と医師会の抗争―（その一）、（その二）」青柳精一『ばんぶう』（七七）一五六～一五八、（七八）一四〇～一四二
「医療史管見」羽田春兎『大和臨医談講抄』（一六）五～六

衛生・公衆衛生史

「性・年齢による総合健診受診者の生化学的成績の推移に関する研究―初潮年齢と血清生化学値の関係について―」三輪卓爾、三浦佳子、伊藤要、宮川昭平、平野井直英『協栄生命研究助成論文集』Ⅲ五三～六〇
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（三五）スノーとポット」北博正
『公衆衛生』五一（一）三七
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（三六）コレラの伝播速度」北博正

『公衆衛生』五一（二）八九
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（三七）黒球寒暖計の考案」北博正『公衆衛生』五一（三）一九六
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（三八）屎尿処理」北博正『公衆衛生』五一（四）三四一
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（三九）便所の改良」北博正『公衆衛生』五一（七）四七八
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（（四〇）冷奴チフス」北博正『公衆衛生』五一（八）五二二
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（（四一）、（四三）エイズと梅毒」北博正『公衆衛生』五一（九）六六一、（一〇）七三五
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（四二）浜松の大福餅事件」北博正『公衆衛生』五一（一〇）七二九
「衛生公衆衛生学史こぼれ話（四四）イヌの藉口令」北博正『公衆衛生』五一（一一）七六八
「砒素中毒の歴史」三浦豊彦『日本医史学雑誌』三三（一）六七～六九
「警察と公衆衛生」石田純郎『日本医事新報』（三三一四）五九～六〇
「日本における口腔衛生指導法の変遷」榊原悠紀田郎、石井拓男『日本歯科医史学会々誌』四（一）三八～三九
「日本住血吸虫症撲滅の歴史」三井栄二『日本放射線技術学会誌』四三（六）七四二
「人間ドックの歴史（一）、（二）」三輪卓爾　BIO medica　二（一一）一一六一～一一六五、二（一二）一二五四～一二五九
「鷗外の『陸軍衛生制度史』」富樫雅生　『山形県立病院医学雑誌』二一（一）一七二～一七六
「日本の『工場法』の終焉—戦争と労働衛生—」橋本重遠『労働衛生ジャーナル』（一三三）三
「目で見る労働と健康の歴史（その三）中国古代からはじめて十九世紀ヨーロッパに及ぶ（その四）幕末から明治初年の技術導入と労働衛生」　三浦豊彦『労研維持会資料』（一一一八～一一一九）一～一五、（一一四三～一一四六）一～三七
「生野鉱山の塵肺の歴史—十九世紀初頭から二十世紀—　第一部　徳川時代の生野銀山の煙毒、第二部　明治時代から現代までの生野鉱山の煙毒、塵肺」　三浦豊彦　『労働科学』　六三（二）六一～七六、六三（八）三八七～四〇九

解剖学史

「『解体新書』付図—おわりの四図について—」菅野　陽『学燈』（八四）二八～三一
「下野国壬生・鳥居藩における解剖図について」石崎達『日本医史学雑誌』三三（一）七六～七七
「前野良沢と『解體新書』」酒井恒『日本医史学雑誌』三三（一）一八～二〇
「日本解剖史の名作『施薬院解男体臓図』」鈴木　侃『日経メディカル』一六（五）二一八～二一九
「中国医術と西洋医術—解剖学事始—」杉本つとむ『週刊朝日百科』日本の歴史　八二（六一〇）一三七

眼科史

「麦粒腫の治療史（明治二〇年以降より）と麦粒腫症例統計について」奥沢康正『あたらしい眼科』四（七）九七九～九八五
「医学史上に散見する眼科（三一）―近世ヨーロッパ（三）―」飯沼巌『銀海』（一一一）三八～四一
「色盲のルーツを訪ねて（その五）」奥沢康正『日本の眼科』五八（五）三九一～三九三
「〝『日本の眼科』のルーツ〟（日本眼科医師会会報）に書かれた創刊号と検眼問題について」奥沢康正『日本の眼科』五八（一〇）九六一～九六三
「治翳新法」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（一）九二～九三
「眼科治論書」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（二）一七〇～一七一
「眼科提要」中泉信行、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（三）二六二～二六三
「眼科籠本論（一六巻）」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（四）四一二～四一三
「眼目明鑑」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（五）五四六～五四七
「眼目明辨」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（六）六七四～六七八
「眼科撰要」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（七）八七六～八七七
「眼科錦嚢　続眼科錦嚢（一）、（二）」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（八）一〇二〇～一〇二一、四一（九）一一二六～一一二七
「眼科龍木論（一）、（二）」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（一〇）一一九六～一一九七、四一（一一）一二六八～一二六九
「傳氏眼科審視瑤函（一）」中泉行信、中泉行史、斎藤仁男『臨床眼科』四一（一二）一三五八～一三五九

看護史

「戦後に生きていた赤紙召集　―朝鮮戦争に召集された日赤看護婦―」高橋政子『看護学雑誌』五一（六）五七四～五七八
「社会的・教育的役割をふりかえる―国立四大学教育学部・特別教科（看護）教員養成課程の二〇年―」石川稔生『看護教育』二八（三）一四六～一五一
「日本の看護の歴史（一）前近代（一）、（二）」看護歴史研究会『看護教育』二八（八）四九二～四九三、二八（九）五五六～五六三
「日本の看護の歴史（三）古代の医療と看護（一）、（二）」看護歴史研究会『看護教育』二八（一〇）六二四～六二五、二八（一一）六九四～六九五
「日本の看護の歴史（五）中世の医療と看護」看護歴史研究会『看護教育』二八（一三）八二〇～八二三
「日本における近代的看護婦の養成と合衆国長老教会のかかわりについて―番町スクールを中心に―（一）」亀山美知子『看護

展望』一二（一一）一〇八三～一〇八九
「看護教程草案（救護看護婦用）第一巻（昭和十七年四月刊）についての第一報」湯浅高之、植木清二、屋代正幸『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四七
「看護教程草案（救護看護婦用）第一巻（昭和十七年四月刊）についての第二報」植木清二、湯浅高之、屋代正幸『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四七～四八

寄生虫学史

「わが寄生虫研究のながれ」横川宗雄『感染・炎症・免疫』一七（一）五八～六九

軍陣医学史

「陸軍軍医中将芳賀栄次郎博士に関する研究（第四報～第六報）」片岡義雄『防衛衛生』三四（二）五一～五七、（三）八七～九二、（四）一三一～一三九
「陸軍軍医学校における教育過程の変遷について」清水勝嘉『防衛衛生』三四（六）二三九～二四六

形成外科学史

「わが国における唇裂治療の発展史」難波雄哉『日本形成外科学会雑誌』七（六）五九一～五九八
「成形手術図譜（明治十五年刊）について」米長悦也、古瀬信久、鈴木邦夫、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一三～一四

外科史

「手術の動向からみた外科の変遷」川島望『外科』四九（一）五九～六六
「ハイステル外科書蘭訳本の扉絵」古川明『日本医史学雑誌』三三（二）二四二～二四四
「救急蘇生法に関する書誌（第一報）」谷津三雄、武田和久、吉井秀鋳、大場重信、松本好正『日本歯科医史学会々誌』一三（四）二〇六～二〇九
「学校内救急処置の内容について」山口秀紀、宮悌伍、谷津徳男、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四五～四六
「外科の守護聖人 聖コーム（Saint Come）の一七〇〇年祭」大村敏郎『臨床外科』四二（一二）一八〇五

細菌学史

「アノイリナーゼ菌研究史補遺」吉井善作『日本医史学雑誌』三三（二）一八六～一九四

産婦人科史

「西欧の育児習俗―スワドリングの産育史的意義―」大野晏且『史海』（三四）二五～三九
「明治初期の翻訳育児書」小嶋秀夫『日本医史学雑誌』三三（一）九〇～九二
「日本における産科学的聴診法導入」蔵方宏昌『日本医史学雑誌』三三（一）一〇一～一〇三
「スワドリング（Swaddling）について」大野晏且『日本医史学雑誌』三三（二）二三八～二三九
「戦後産婦人科四十年小史 上・下」品川信良『日本医事新報』（三二八九）五九～六二、（三二九〇）六七～七〇

歯学史

「『医心方』における風歯・齲歯・牙歯痛に関する考察」戸出一郎
『日本医史学雑誌』三三（一）二八～三〇
「最初に英語で書かれた歯科医学書（その四）、（その五）Charles Allen: The Operator for the Teeth の邦訳と注解（その二）、（その三）」森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一三（四）一七三～一七六、一三（四）一七七～一八二
「英語で書かれた第二番目の歯科医学書　ジョーゼフ・ハーロック著 "A Practical Treatise on Dentition" について」森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一三（四）一八三～一八八
「十六世紀初頭にはじめてドイツ語で書かれた歯科啓蒙書について（その一）—Zene Artzney（『歯のおくすり』の書誌学—」森山徳長『日本歯科医史学会会誌』一三（四）一八九～一九六
「十六世紀初頭にはじめてドイツ語で書かれた歯科啓蒙書について（その二）—Zene Artzney『歯のおくすり』の和訳（一）」森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一三（四）一九七～二〇一
「初めてフランス語で書かれた歯科医学書（一）—エルバン・エマール著『歯の真正なる解剖　その性質および特性についての研究』の書誌学（その一）—」森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一四（二）一〇二～一〇五
「大日本歯科医学会編『歯科医籍』第壱巻（明治三十六年末現在）にみられる主な歯科医師名」坂本嘉久、江川裕之、村木春長、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一三（三）一四八～一五一
「第四回内国勧業博覧会の歯科教育資料出品物とその審査結果」大橋正敬、後藤尚久、竹井満久、加藤保雄、飯塚秀人、深瀬康公『日本歯科医史学会々誌』一三（三）一五二～一五六
「邦訳『人の歯の博物学』（五）、（六）」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一三（三）一五七～一六〇、一四（一）五九～六二
「フォシャール手稿の分析（八）」高山直秀『日本歯科医史学会々誌』一三（三）一六一～一六四
「木床義歯の歴史　その一—木床義歯の起源について—」新藤恵久『日本歯科医史学会々誌』一三（四）二一八～二二一
「高山紀斎著『保歯新論』および『歯の養生』について」森山徳長、田辺明、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（一）九～一〇
「高山歯科医学院編『歯科手術論』の書誌学」森山徳長、小幡哲夫、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一〇～一一
「高山歯科医学院編『歯科汎論』の書誌学」森山徳長、佐々木脩浩、市之川武、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一一～一二
「福島尚純著『下顎関節炎及牙関緊急』について」吉村宅弘、門平光信、中野浩嗣、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一四
「第五回内国勧業博覧会の歯科出品物　第一報—歯科器材について—」大橋正敬『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一四～一五
「第五回内国勧業博覧会歯科出品物の審査結果　第一報—歯科器

材について—」大橋正敬『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一五～一六
「日本歯科医学会沿革概要（日本歯科医学会編、大正十二年三月刊）（第二報）」吉井秀鋳、武田和久、坂元雅明、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一六～一七
「東京歯科医学院講義録（第二輯）『歯科医学講義』および（第三輯）『新纂歯科学講義』について」森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一七～一八
「東京歯科医学専門学校『歯科学講義』について」森山徳長、石川達也、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一八～一九
「『諸病源候論』における歯痛の分類について」佐藤恭道、別部智司、戸出一郎『日本歯科医史学会々誌』一四（一）一九～二〇
「『医心方』における歯痛の分類について」佐藤恭道、別部智司、戸出一郎『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二〇～二一
「G.V. Black を訪ねて」中原泉『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二一
「高山紀斎著『衛生保歯問答』について」森山徳長、小幡哲夫、高添一郎『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二二～二三
「高山紀斎著『歯科薬物摘要』について」森山徳長、西尾宏英、石川達也『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二四～二五
「高山歯科医学院編『歯科薬物学』の書誌学」森山徳長、西尾宏英、熱田俊之助『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二五～二六
「麻酔学書誌学的研究（第二報）—喜多村敬次郎著『局所麻痺法全』（大正五年刊）について—」石橋肇、庵原正彦、藤井敏博、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二六～二七
「高山歯科医学院編『歯科治金学』の書誌学」森山徳長、熱田俊之助、西尾宏英『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二八
「高山歯科医学院編『実用歯科器械学』の書誌学」森山徳長、佐々木脩浩『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二八～二九
「私の歯学史考—歯学の未来を考える—」高添一郎『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二九
「八束脛洞窟遺跡出土のヒトの歯—縄文人の歯か？—」杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三〇
「百舌鳥（もず）三陵と歯」杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三〇～三一
「入目入歯師について」拓植三郎、新藤恵久『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三一
「日本の蠟型鋳造の歴史」新藤恵久『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三一～三二
「曲亭馬琴の義歯について　第四報—義歯修理—」本山佐太郎『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三二
「木床義歯の科学技術史研究　その二—蠟石を応用した木床義歯の製作—」上野乃武彌、杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三二～三三
「房楊枝の歯みがき効果について」本間邦則、泉田亮助『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三四

「喫煙者用歯磨の歴史」下総高次『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三四～三五
「片瀬蔵書に見られる歯科処方とその考察」上潟口武、嶋村昭辰『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三五～三七
「細菌学黎明期におけるプラーク研究―とくにCorn-cob形成について―」森山徳長、佐々木脩浩、大田功正、奥田克爾、高添一郎『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三七～三八
「日本海軍歯科医科士官の歴史（Ⅳ）大正時代における創設への動向」山崎智『日本歯科医史学会々誌』一三（一）三九～四〇
「出動地における歯科診療」落合俊輔、池田直、出地弘、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四〇～四一
「高山紀斎述『歯牙の人身に大関係を有する演述』」武田和久、金子賢司、小池陽一郎、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四一～四二
「歯学研鑽について」坂本嘉久、江川裕之、渡辺有子、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四三～四四
「歯学の教授科目の分科・発展とその統合に関する医史学的研究（その一）緒論、（その二）史実、（その三）展望」森山徳長『日本歯科医史学会々誌』一四（一）五一～五三、一四（一）五四～五八、一四（二）八五～八八
「『コドモのよむ歯の本』の内容について」金子守男、岸孝光、高杉卓志、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）四六～四七
「梅毒歯について」本間邦則『日本歯科医史学会々誌』一四（二）一四〇～一四二

史跡・記念碑

「帝王切開術発祥の地に記念碑」医学界新聞編集部『医学界新聞』（一七五八）四
「史跡めぐりをしてみませんか。一度は訪れたい『適塾』」医学界新聞編集部『医学界新聞』（一七七六）一一
「宮崎県医史懇話会　第六回　医史跡探訪記（佐土原・西米良）」谷山淳孝、神戸十四郎『日州医事』（四五一）三四～四二
「京都の医薬史跡一覧」米田該典『薬史学雑誌』二二（一）一二～一五

疾病史

「日本近代結核史（一）～（四）」小松良夫『健康会議』三九（七）二三～二七、三九（八）二八～三三、三九（九）二六～三一、三九（一〇）一九～二四
「検査成績からみた治療効果（Ⅰ）狭心症と心筋梗塞　歴史と進歩」戸山靖一『現代医療』一九（二）九九八～一〇〇一
「検査成績からみた治療効果（Ⅱ）脳卒中　歴史と進歩」相澤豊三『現代医療』一九（三）一一六九～一一七二
「検査成績からみた治療効果（Ⅲ）胃炎・胃潰瘍　歴史と進歩」三好秋馬『現代医療』一九（四）一三二八～一三三〇
「検査成績からみた治療効果（Ⅳ）気管支喘息　歴史と進歩」高橋昭三『現代医療』一九（五）一五〇三～一五一八
「検査成績からみた治療効果（Ⅴ）甲状腺疾患　歴史と進歩」入江実『現代医療』一九（六）一六六九～一六七三

「検査成績からみた治療効果（Ⅵ）（a）心不全　歴史と進歩」橋場邦武『現代医療』一九（七）一八九七～一九〇〇
「検査成績からみた治療効果（Ⅵ）（b）吸収不全　歴史と進歩」長野準『現代医療』一九（七）二〇七四～二〇八六
「検査成績からみた治療効果（Ⅵ）（c）腎不全　歴史と進歩」東條静夫『現代医療』一九（七）二一九三～二一九七
「検査成績からみた治療効果（Ⅵ）（d）肝不全　歴史と進歩」高橋善弥太『現代医療』一九（七）二二九九～二三〇四
「検査成績からみた治療効果（Ⅵ）（e）免疫不全　歴史と進歩」矢田純一『現代医療』一九（七）二三八六～二三九六
「検査成績からみた治療効果（Ⅶ）糖尿病とその合併症　歴史と進歩」平田幸正『現代医療』一九（八）二五六二～二五六六
「検査成績からみた治療効果（Ⅷ）高血圧　歴史と進歩」増山善明『現代医療』一九（九）二七七九～二七八四
「日本らい史（一四）Ⅴ、法制定への道程（つづき）」山本俊一『多磨』（一一）九～一二
「日本らい史（一五）～（一八）Ⅵ、法律第一一号」山本俊一『多磨』（二月）二～五、（三月）八～一一、（四月）一一～一四、（五月）二～六
「日本らい史（一九）～（二五）」山本俊一『多磨』（六月）二～六、（七月）二～六、（八月）二～六、（九月）二～六、（十月）二～六、（十一月）二～六、（十二月）二～六
「結核の歴史の概要」螺良英郎『内科 MOOK』（三六）一～三
「『多聞院日記』に現われる消化器疾患の検討」中村昭『日本医史学雑誌』三三（一）三四～三六
「『明月記』における癌疾の検討」中村昭『日本医史学雑誌』三三（二）一七二～一八五
「藤原定家『明月記』における癌疾」中村昭『日本医史学雑誌』三三（二）二四一～二四二
「『小品方』に見る疾病背景の分析と服薬指示―治療と養生の接点について―」真柳誠『日本医史学雑誌』三三（四）四三五～四七六
「脚気の歴史（一）～（三）ビタミン発見史」山下政三 BIO medica 二（二）一七四～一七六、二（三）二八五～二八七、二（四）三八八～三九一
「逸話史（一）ペスト」酒井シヅ BIO medica 二（八）八二〇～八二三
「逸話史（二）医学書と挿図」酒井シヅ BIO medica 二（九）九四二～九四五
「糖尿病物語（その六）インスリンの発見をめぐって」平田幸正『病態生理』六（一）五二
「糖尿病物語（その七）インスリンの注射を最初に受けた Leonald Thompson の歴史」平田幸正『病態生理』六（二）一四〇
「糖尿病物語（その八）糖尿病という日本語の定着」平田幸正『病態生理』六（三）二二一
「糖尿病物語（その九）、（その一〇）食事療法の歴史Ⅰ、Ⅱ」平田幸正『病態生理』六（四）三〇四、六（五）三七八

「糖尿病の歴史（その一一）インスリン製剤の進歩」平田幸正『病態生理』六（六）四六二
「糖尿病物語（その一二）経口剤にみる糖尿病治療の歴史」平田幸正『病態生理』六（七）五五〇
「戦争と結核」白崎昭一郎『北陸医史』八（一）二一～二五
「天然痘物語」（一）～（一二）松本稔『メディヤサークル』三二（一）一一～一四、三二（二）五七～六一、三二（三）九三～九七、三二（四）一五七～一六二、三二（五）二〇三～二〇八、三二（六）二五一～二五五、三二（七）三〇三～三〇七、三二（八）三一九～三三三、三二（九）三七九～三八四、三二（一〇）四四七～四五一、三二（一一）四九三～四九九、三二（一二）五四九～五五四
「医療今昔物語―学説・診療の変遷一、いわゆる脳膜炎―」石田純郎『臨床科学』一三（一〇）一三六八～一三七四

耳鼻咽喉科学史

「古典あれこれ Antonio Scarpa」酒井シヅ JOHNS 三（一）三〇一～三〇四
「古典あれこれ シェーグレン症候群」堀内正敏 JOHNS 三（四）六四六～六四八
「古典あれこれ Schwartze と鼓膜切開」飯沼壽孝 JOHNS 三（六）八九三～八九六
「古典あれこれ Schwartze と乳突洞削開術」飯沼壽孝 JOHNS 三（八）一一八八～一一九〇
「古典あれこれ Caldwell-Luc の手術」堀内正敏 JOHNS 三（一〇）一六〇一～一六〇四
「日本における初期の耳科書四種」田中助一『日本医史学雑誌』三三（一）一六～一七

種痘史

「『牛痘発蒙』の附図（口絵）について」正橋剛二『北陸医史』八（一）一九

獣医学史

「古獣医書『王良二儀秘抄』について」長尾壮七『日本獣医史学雑誌』（二二）五～一一
「メルボルン獣医科大学とW・T・ケンダル（Ⅱ）」中村洋吉『日本獣医史学雑誌』（二二）一二～一八
「動物検疫からみたジャージー牛の輸入（Ⅱ）」矢崎信夫『日本獣医史学雑誌』（二二）一九～二九
「馬医書『意切辨治集』の解読について」島田謙造『日本獣医史学雑誌』（二二）三〇～三九
「犬人の衣装について」間庭秀信『日本獣医史学雑誌』（二二）四〇～四一

循環器病学史

「循環器学の歴史一　ハーヴィ以前」酒井シヅ『循環科学』七（一）九〇～九三
「循環器学の歴史二　ハーヴィと血液循環説の成立まで」酒井シヅ『循環科学』七（二）三四四～三四七
「循環器学の歴史三　血液循環の命名とその意義」酒井シヅ『循環科学』七（二）三四四～三四七

「循環器学の歴史四　中世までの心臓病観」酒井シヅ『循環科学』七（四）四六四～四六七
「循環器学の歴史五　東洋の医書にみる心臓病」酒井シヅ『循環科学』七（五）五八〇～五八三
「循環器学の歴史六、七　心臓および血管系の解剖学（一）、（二）」酒井シヅ『循環科学』七（六）七〇～七三、七（七）八〇四～八一〇
「循環器学の歴史八　近代以前の生理学」酒井シヅ『循環科学』七（八）九一六～九二〇
「循環器学の歴史九　毛細血管」酒井シヅ『循環科学』七（九）一〇二八～一〇三一
「循環器学の歴史一〇　血液形態学の研究」酒井シヅ『循環科学』七（一〇）一一四二～一一四五
「循環器学の歴史一一　心臓病への接近」酒井シヅ『循環科学』七（一一）五六～五九
「循環器学の歴史一二　循環器の病理学」酒井シヅ『循環科学』七（一二）一三六六～一三六九
「心臓血管外科をささえた人びと」堀内藤吾『東北医誌』一〇〇（一）六三～六八
「心臓血管外科をささえた人びと（総説）」堀内藤吾『日本外科学会雑誌』八八（六）六五七～六六二

書簡

「荻生徂徠が芳村天仙へ送った書簡について」荒木ひろし『日本医史学雑誌』三三（一）五〇～五二

書誌学

「医史学名著解題（一二）ウィリアム・ハーヴィ『動物の心臓ならびに血液の運動に関する解剖学的研究』」酒井シヅ『医学図書館』三四（二）九七～九九
「医史学名著解題（一三）レオナルド・ダ・ヴィンチ『解剖手稿』」酒井シヅ『医学図書館』三四（三）一八七～一八九
「ボレリの『動物の運動』をめぐる随想」木村陽二郎『科学医学資料研究』（一五二）一～四
「アーサー・ケストラー著『サンバガエル事件』とパウル・カンメラー」古川哲雄『科学医学資料研究』（一五二）一〇～一二
「S・エクスナー『人間の大脳皮質における機能局在の研究』」松下正明『科学医学資料研究』（一五七）一～三
「『解体新書』付図―おわりの四図について―」菅野陽『学鐙』八四（二）二八～三一
「『康治本傷寒論』考（一）」岡本洋明『漢方の臨床』三四（八）五一八～五三〇
「漢方古典文献概説（一六）『敦煌文書』中の医薬文献（その五）附・西域出土医薬文書」小曽戸洋『現代東洋医学』八（二）九二～一〇一
「漢方古典文献概説（一七）北宋代の医薬書（その一）」小曽戸洋『現代東洋医学』八（三）八三～九一
「素人即座療法翻刻（上）（中）（下）」正橋剛二『とやま県医報』（九四九）二〇～二四、（九五〇）二二～二六、（九五二）二八～三二

「『本草和名』所引の古医学文献」真柳誠『日本医史学雑誌』三三（一）二五～二七
「『医心方』の伝写について（Ⅶ）」杉立義一『日本医史学雑誌』三三（一）三〇～三一
「『福田方』組成文献の解析」小曽戸洋『日本医史学雑誌』三三（一）三一～三三
「新確認の慶長古活字版『黄帝秘要良方』」白石尚基・原中瑠璃子・小曽戸洋『日本医史学雑誌』三三（一）三六～三八
「書籍目録に見られる江戸中期の流通医書」平馬直樹『日本医史学雑誌』三三（一）三九～四一
「『医事撥乱解』について」和田耕作『日本医史学雑誌』三三（一）五三～五四
「カラホト出土マスペロ文書№四七八について—未宋改元刻『千金方』の存在—」小曽戸洋『日本医史学雑誌』三三（一）一九五～二〇二
「『本草和名』引用書名索引」真柳誠『日本医史学雑誌』三三（三）三八一～三九六
「金剛寺本『医心方』巻第十三（翻印）」東野治之『日本医史学雑誌』三三（三）三九七～四〇八
「下平用彩著『診断学』明治時代におけるベストセラーと思われる医学書」谷津三雄、石橋肇、清沢美智子、金子守男、渋谷幸男『日本歯科医史学会々誌』一三（四）二一〇～二一三
「新出『金匱要略』元刻本の文献学的検討」真柳誠ら『日本東洋医学雑誌』三七（四）三六二
「『佐渡嶋採薬譜』の研究」安江政一『薬史学雑誌』二二（一）三〇～三七

小児科学史

「小児科の歴史（その一）、（その二）」石田純郎『岡山県小児科医会会報』（八）一二～一六、（九）二二～三〇
「わが時代の小児科学」堀田正之『九大小児科同門会会報』（九九）一六～一九
「小児精神神経学研究会の発足前後」小林提樹『小児の精神と神経』二七（一、二）五～一〇
「日本の小児科領域にみられるプラグマティズムについて」広田曄子『日本医史学雑誌』三三（二）二三九～二四〇
「コプリック斑のわが国への受容」深瀬泰且『日本医史学雑誌』三三（三）二九四～三〇七
「韓国における小児外科小史」Woo-Ki Kim『日本小児外科学会雑誌』二三（一）一八～二二
「Hirschsprung病研究三〇年を顧みて」岡本英三『日本小児外科学会雑誌』二三（二）二七五

神経学史

「神経内科 Clinical Notes 十九世紀文学にみられるナルコレプシー」古川哲雄『内科』六〇（一）一三〇
「原典・古典の紹介 Benjamin Rushの「失語」についての記載（一八一二）」古川哲雄『神経内科』二六（一）九三～九五
「原典・古典の紹介 Charles Bell著 "Essays on the Anatomy of Expression in Painting"（一八六六）」古川哲雄『神経内

科』二六（二）二〇一～二〇三
「原典・古典の紹介　Brown-Séquard 症候群と考えられる Charles Bell の記載（一八三〇）」古川哲雄『神経内科』二六（五）五一五～五一六
「原典・古典の紹介　Collier 徴候」古川哲雄『神経内科』二七（三）三〇八～三一一
「原典・古典の紹介　Howard H. Tooth 著 "The personal type of progressive muscular atrophy（一八八六）」古川哲雄『神経内科』二七（五）五二四～五二六
「原典・古典の紹介 Meralgia paraesthetica（錯感覚性大腿痛）」古川哲雄『神経内科』二七（六）六〇八～六一一
"classics in neurology Heinrich Bruno Schindler's description of narcolepsy in 1829" 古川哲雄 NEUROLOGY（三七）一四六

診断学史

「百年むかしの診断書から」寺山晃一『一陽会病院紀要』四九（二）九一～九五、四九（五）六一～六五

整形外科史

「整形外科を育てた人達（第四五回）Gathorne Robert Girdlestone（1881-1950）」天児民和『臨床整形外科』二二（一）七二～七五
「整形外科を育てた人達（第四六回）Marie François Xavier Bichat」天児民和『臨床整形外科』二二（二）二〇四～二〇七
「整形外科を育てた人達（第四七回）Antonio Scarpa（1747-1832）」天児民和『臨床整形外科』二二（三）三〇四～三〇七
「整形外科を育てた人達（第四八回）John Hunter（1728-1793）」天児民和『臨床整形外科』二二（五）六三八～六四一
「整形外科を育てた人達（第四九回）Carl Thiersch（1822-1895）」天児民和『臨床整形外科』二二（六）七三四～七三七
「整形外科を育てた人達（第五〇回）Otto Wilhelm Madelung（1846-1926）」天児民和『臨床整形外科』二二（七）八七二～八七五
「整形外科を育てた人達（第五一回）Edward Hallaran Bennett（1837-1907）」天児民和『臨床整形外科』二二（八）九九二～九九五
「整形外科を育てた人達（第五二回）Hermann Gocht（1869-1938）」天児民和『臨床整形外科』二二（九）一〇八八～一〇九一
「整形外科を育てた人達（第五三回）Sir Astley Paston Cooper」天児民和『臨床整形外科』二二（一〇）一一〇六～一一〇九
「整形外科を育てた人達（第五四回）Robert Bayley Osgood（1873-1956）」天児民和『臨床整形外科』二二（一一）一一九二～一一九五
「整形外科を育てた人達（第五五回）Albert Henry Freiburg」天児民和『臨床整形外科』二二（一二）一三九四～一三九七

精神医学史

「福島県での精神医療の歩み　付・福島県精神病院協会三〇年略史」寺山晃一『一陽会病院紀要』（五）一～一七

「病薬道戯競」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（九）一～二
「デーニッツ講義『断訟医学』（明治十二年）（その二）、（完結）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（九）三～七、（一〇）一～八
「シワイス国癲狂條例（一八八七年紹介）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（九）八～一三
「榊　保三郎『癲狂院に於ける精神病看護学』（完結）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（九）一四～二四
「人類の最大暗黒界瘋癲病院（その四）王子精神病院」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（九）二五～三一
「人類の最大暗黒界瘋癲病院（その五）東京精神病院」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一〇）三五～三八
「人類の最大暗黒界瘋癲病院（その六）東京脳病院」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一一）一六～二一
「天皇制と精神疾患患者・資料『大禮記録』（完結）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（九）三二～四〇
「榊俶『精神病論』（その一）、（その二）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一〇）八～一二、（一一）八～一〇
「私立京都癲狂院『精神病室新築趣意』」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一〇）一三～二〇
「船岡精神病院『入院心得書』」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一〇）二一～二八
「英国瘋癲人取締法（その一）、（その二）」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一〇）二九～三四、（一一）一一～一五
「色つきはさみこみ『心因性緘黙症児』、『おどる狂女』」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一〇）付録
「色つきはさみこみ『純粋資質面図』、『岩鼠散黒焼』」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一一）付録
「動物電気論（その一）」メスマー『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一一）一～七
「東京脳病院規則并ニ規定」『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一一）二二～二六
「対談　金森五郎先生に聞く―福島県での最初の精神病院開設前後―」金森五郎・寺山晃一『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一一）二七～三一（『一陽会病院紀要』（五）四六～五五）
「西洋男女相性図解」柳田政寛『呉秀三先生記念精神科医療史資料通信』（一一）三二～三四
「精神医学の古典を読む　ウェルニッケ　精神病は脳病」西丸四方『こころの科学』（一五）一三一～一三七
「精神医学の古典を読む　平安朝ものぐるひ『医心方』」西丸四方『こころの科学』（一六）一一四～一一九
「ガレーノスの精神疾患論　その一　罹患した部位について（De locis affectis）」濱中淑彦翻訳『精神医学』二九（六）六三九～六四四
「ロマン派精神医学の一側面―ユスティヌス・ケルナー生誕二〇〇年にちなんで―」濱中淑彦『日本医史学雑誌』三三（一）

四～八

「隋唐の医書にみる精神病とその治療」大塚恭男『日本医史学雑誌』三三（一）九～一五

「ドイツ第三帝国下における精神分析学の動向について」小俣和一郎『日本医史学雑誌』三三（一）六五～六六

「『多聞院日記』に現われる精神神経疾患の追加」中村昭『日本医史学雑誌』三三（一）一一二～一一三

「初老期痴呆物語」王丸勇『日本医事新報』（三二七九）五九～六〇

「榊俶先生精神病学開講百年を記念して」岡田靖雄『日本医事新報』（三三〇七）五九～六一

生化学史

「ビタミンD研究を支えてきた人々（一一）D. Eric M. Lawson（1936～）」岡野登志夫『中外医薬』四〇（一）六一～六六

「ビタミンD研究を支えてきた人々（一二）佐橋佳一（一八九四年～）」舛重正一『中外医薬』四〇（二）一三九～一四二

「ビタミンD研究を支えてきた人々（一三）小林　正（一九三二年～）」岡野登志夫『中外医薬』四〇（四）二七八～二八二

「ビタミンD研究を支えてきた人々（一四）Hector F. DeLuca（1930～）」森井浩世『中外医薬』四〇（九）五六三～五六六

「ビタミンD研究を支えてきた人々（一五）Heinrich K. Schnoes（1939～）」山田幸子『中外医薬』四〇（一〇）六三～六三四

「ビタミンD研究を支えてきた人々（一六）須田立雄（一九三五年～）」西井易穂『中外医薬』四〇（一一～一二）六九七～七〇三

生理学史

「生理学書出版（仮）年表―江戸から明治前期まで―」矢部一郎『日本医史学雑誌』三三（三）三六七～三八〇

地方史

「郷土医史　明治の鹿児島医学史（その一二）～（その一九）」森重孝『鹿児島市医報』二六（二）六一～六五、二六（三）三三～三四、二六（四）四八～五一、二六（六）四一～四四、二六（七）三九～四一、二六（九）八二～八四、二六（一〇）五三～五六、二六（一一）五八～五九

「大分医学史めぐりの旅」大滝紀雄『保団連』（二五六）五二～五六

治療史

「平安時代の治療学書」宗田一『日本医事新報』（三三〇三）一三九

「治療の歴史　高気圧酸素治療」榊原欣作『治療学』一八（一）一二七～一三三

「治療の歴史　抗コリン薬」川合満、新実彰男、加藤元一『治療学』一八（二）二六〇～二六三

「治療の歴史　冠拡張薬」今井昭一『治療学』一八（三）三九四～三九六

「文化四年刊「素人即座療治」について」正橋剛二『北陸医史』八（一）三四～三九

伝記

「一九八六年ノーベル医学・生理学賞　Stanley Cohen 人と業績（一）」平田結喜緒『医学界新聞』（一七三〇）六
「一九八六年ノーベル医学・生理学賞 Levi-Montalcini 人と業績（二）」堀真一郎『医学界新聞』（一七三一）八
「アドレナリンと上中敬三」中山沃『医学のあゆみ』一四〇（一）二二
「医学史ミニ博物館（一〇）フランソワ・ラブレーと外科」大村敏郎『医学のあゆみ』一四〇（三）一五三
「医学史ミニ博物館（一一）フランソワ・ラブレーと外科器具」大村敏郎『医学のあゆみ』一四〇（八）六一一
「医学史ミニ博物館（一二）パラケルススの対角」大村敏郎『医学のあゆみ』一四〇（一二）九〇五
「医学史ミニ博物館（一三）ヴェザリウスの師」大村敏郎『医学のあゆみ』一四一（三）一五一
「医学史ミニ博物館（一四）ヴェザリウスの『ファブリカ』」大村敏郎『医学のあゆみ』一四一（七）四一九
「医学史ミニ博物館（一五）日本とヨーロッパの解剖の世紀」大村敏郎『医学のあゆみ』一四一（一二）九四一
「医学史ミニ博物館（一六）名を伏せて伝わったパレ全集」大村敏郎『医学のあゆみ』一四二（三）一五五
「医学史ミニ博物館（一七）パレ伝来本の謎」大村敏郎『医学のあゆみ』一四二（一二）八七〇
「医学史ミニ博物館（一八）聖コームの一七〇〇年祭」大村敏郎『医学のあゆみ』一四三（三）一六七
「医学史ミニ博物館（一九）フランソア一世の橋」大村敏郎『医学のあゆみ』一四三（八）六四五
「医学史ミニ博物館（二〇）アンブロアズ・パレの生地と立像」大村敏郎『医学のあゆみ』一四三（一二～一三）八九五
「長谷川徳之の事績と系譜」寺畑喜朔『醫譚』（七二）九～一三
「適塾門人本間恒哉とは」舟木茂夫『いわちどり』（小笠医師会誌）（一五）七二～七八
「吉田顕三（一八四八～一九二四）のこと」丸山博『大阪大学史紀要』（四）二～二四
「ヘルムホルツ『生理学提要』について（九）」山口宙平『科学医学資料研究』（一六一）七～一二
「足立文太郎博士と著作」　酒井シヅ　『科学医学資料研究』（一六三）一～四
「アントニオ・スカルパ（Antonio Scarpa 1752-1832）とその業績」（一）、（二）飯田収『科学医学資料研究』（一五三）一～四、（一五五）六～一二
「ヨハネス・ミュラーの生涯・思想・業績について（一）、（二）」山口宙平『科学医学資料研究』（一五五）一～五、（一五七）八～一二
「別課医学科卒業生佐藤英太郎　明治の生野鉱山産業医」三浦豊彦『科学医学資料研究』（一六〇）一～八
「武見太郎の足跡（第六回）武見太郎の遺した課題」羽田春兎、水野肇『からだの科学』（一三二）一〇二～一一一

「大隈重信公の脚」大岳康子『看護』三九（七）七四～七九
「李時珍の末裔」宮下三郎『漢方の臨牀』三四（一）八七～九三
「口絵・曲直瀬一渓道三肖像、曲直瀬道三と『玉機微義』、道三書状、岡本玄治画像ほか」『漢方の臨牀』三四（一二）八一八～八二一
「今大路家、曲直瀬家家系及び学統一覧（三つ折）」『漢方の臨牀』三四（一二）八二五～八二六
「曲直瀬道三生誕四八〇年記念特集号の発刊に当って」矢数道明『漢方の臨牀』三四（一二）八二九
「曲直瀬道三の医術―その概要―」安井広迪『漢方の臨牀』三四（一二）八三〇～八三六
「曲直瀬道三の二脈書について」圓斉・佐藤貞美『漢方の臨牀』三四（一二）八三七～八四七
「『啓迪集』の構成について」安井広迪『漢方の臨牀』三四（一二）八四八～八五三
「『啓迪集』及び『切紙』の「四証四治」からみた心下の腹証」小川新『漢方の臨牀』三四（一二）八五四～八五八
「一渓道三伝補遺」宗田一『漢方の臨牀』三四（一二）八六〇～八六三
「『切紙』五十七ヶ条にみる道三の識見と思想」『漢方の臨牀』三四（一二）八六四～八六六
「北村宗龍をめぐる曲直瀬道三関係の資料」大谷雅彦『漢方の臨牀』三四（一二）八六八～八七三
「曲直瀬道三の弟子達」編集部『漢方の臨牀』三四（一二）八七四～八七八
「鉄牛禅師賛　岡本玄治画像」杉立路山『漢方の臨牀』三四（一二）六八〇～六八一
「慶應義塾所蔵曲直瀬家文書について―綸旨・口宣案と玄朔門下誓詞を中心として―」高橋正彦『漢方の臨牀』三四（一二）八八二～九〇二
「曲直瀬養安院家の人々―麻布天真寺に遺存する資料等から―」小曽戸洋『漢方の臨牀』三四（一二）九〇三～九二二
「曲直瀬・今大路家歴代の遺墨解説」矢数道明『漢方の臨牀』三四（一二）九二四～九三三
「曲直瀬道三医案集」編集局『漢方の臨牀』三四（一二）九三四～九六二
「初代道三後の曲直瀬家の家系」『漢方の臨牀』三四（一二）九六四～九六五
「曲直瀬道三年譜」矢数道明『漢方の臨牀』三四（一二）九六六～九六七
「『国書総目録』所載道三著作輯」『漢方の臨牀』三四（一二）九六九～九七四
「銀海・人・とき・ところ（三一）川辺時三氏ほか」三国政吉『銀海』（一一一）三五～三七
「ベンチャーの魁猛者列伝（七）医者から書店経営へ転進『丸善』・早矢仕有的」山西堯『近代企業リサーチ』（五五一）一〇〇～一〇五

“William Gordon Lennox” 和田豊治 Clinical Neuroscience 五（二）二三五
“Victor Alexander Haden Horsley” 半田肇 Clinical Neuroscience 五（四）四八九
“Edgar Douglas Adrian” 佐藤昭夫 Clinical Neuroscience 五（五）六一九
“Alois Alzheimer” 石井毅 Clinical Neuroscience 五（六）七三〇
“Max Bielschowsky” 小田雅也 Clinical Neuroscience 五（七）八四八～八四九
「小川鼎三」中井準之助 Clinical Neuroscience 五（八）九六六
“Moritz Benedikt” 岩田誠 Clinical Neuroscience 五（九）一〇八四～一〇八五
「味岡三伯とその周辺のことども」近藤鋭矢『啓迪』（五）一～八
「山脇東洋と若狭」杉立義一『啓迪』（五）九～一三
「検査を築いた人びと　血沈検査法を考案したエドムンド・ビールナキィ」酒井シヅ『検査と技術』一五（一）一六
「検査を築いた人びと　斜位の検査法をはじめた眼科医アルブレヒト・フォン・グレーフェ」深瀬泰旦『検査と技術』一五（二）一二八
「検査を築いた人びと　眼の近点測定法を考案したフランシスクス・ドンデルス」深瀬泰旦『検査と技術』一五（三）二四〇
「検査を築いた人びと　細胞分裂を初めて顕微鏡的に明らかにしたウォルター・フレミング」酒井シヅ『検査と技術』一五（四）三一八
「検査を築いた人びと　ヘモグロビンと酸素の結合を解明したフェリックス・ホッペーザイラー」深瀬泰旦『検査と技術』一五（五）四一六
「検査を築いた人びと　細隙灯によって角膜斜照法を開発したアルヴァール・グルストランド」深瀬泰旦『検査と技術』一五（六）七三三
「検査を築いた人びと　視力検査表を考案したヘルマン・スネレン」深瀬泰旦『検査と技術』一五（七）七八八
「検査を築いた人びと　組織培養の先駆者ロス・ハリソン」酒井シヅ『検査と技術』一五（八）八八〇
「検査を築いた人びと　独自の耳鏡を開発したジョセフ・トインビー」深瀬泰旦『検査と技術』一五（九）九九〇
「検査を築いた人びと　喉頭鏡を発明した声楽家マニュエル・ガルシア」深瀬泰旦『検査と技術』一五（一〇）一〇八二
「検査を築いた人びと　喉頭鏡を臨床医学に応用したルートヴィヒ・チュルク」深瀬泰旦『検査と技術』一五（一一）一一七二
「検査を築いた人びと　喉頭鏡を臨床医学に応用したヨハン・ツエルマーク」深瀬泰旦『検査と技術』一五（一二）一二六四
「検査を築いた人びと　医学の偉大な父ヒポクラテス」酒井シヅ『検査と技術』一五（一三）一三五六
「レントゲンの生涯と業績」（二）Ernst Streller『サクラXレイ

写真研究』三八（一）三四～三六
「日本の夜明けとウィリアム・ウィリス」杉立義一　JMC（Japan Federal Medical Cooperative Association）（二四）二五～二六
「英医ウィリアム・ウィリス―日本近代西洋医学の夜明け―」尾辻省吾『消化器集団検診』（七四）七一～七五
「林紀とパリの墓」土屋重朗『静岡県医史学懇話会会誌』（三）二～六
「Sir William Osler―一枚絵の歴程　オスラー卿の謎の石版刷り肖像画―」向井紀二『医学界新聞』（一七五四）二～三
「適塾門人・本間恒哉とは」舟木茂夫『静岡県医史学懇話会会誌』（三）六～一〇
「Harvey Cushing 最後の日」　H.M. Zimmermann, M.D. 著　向井紀二訳『東京医科大学雑誌』四五（二）一五九～一六九
「シーボルト雑記帖一　東印度会社と来日のいきさつ」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（四）二四～二六
「シーボルト雑記帖二　商館長の文書と鳴瀧塾」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（五）二四～二六
「シーボルト雑記帖三　出島とシーボルトの評判」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（六）二四～二六
「シーボルト雑記帖四　鳴瀧塾の由来と当初の生徒たち」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（七）二四～二六
「シーボルト雑記帖五　門下生たちのレポート」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（八）二四～二六
「シーボルト雑記帖六　青年医者本間棗軒と洋風絵師川原慶賀」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（九）二四～二六
「シーボルト雑記帖七　『江戸参府紀行』Ⅰ　ニッポン研究の熱意　橋の種類」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（一〇）二四～二六
「シーボルト雑記帖八　『江戸参府紀行』Ⅱ　壇ノ浦の海流調査と女郎の開祖」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（一一）二四～二六
「シーボルト雑記帖九　『江戸参府紀行』Ⅲ　非人差別、ニッポンの梅毒」吉岡達夫『東洋薬事報』二八（一二）二四～二六
「シーボルト雑記帖一〇　『江戸参府紀行』Ⅳ　クロノメーテルで観測、山椒魚、二冊の画本」吉岡達夫『東洋薬事報』二九（一）二四～二六
「シーボルト雑記帖一一　侍姫へ指輪進呈　原の植物園」吉岡達夫『東洋薬事報』二九（二）二四～二六
「シーボルト雑記帖一二　箱根山の植物採集　薩摩侯、中津侯との面談」吉岡達夫『東洋薬事報』二九（三）二四～二六
「井栗村漢方医桑原春随日記とその周辺」蒲原宏『新潟県医師会報』（四四四）四四～四六
「我が国産科の草分け　賀川玄悦の生涯」神野潔『日経メディカル』一六（七）二一〇～二一一
「野口英世　二枚の写真」菅正明『日経メディカル』一六（九）二二四～二二六
「魯迅先生と仙台」石田名香雄『日中医学』二（二）一三～一六
「秦佐八郎の生涯と業績」秦藤樹『日本医史学雑誌』三三（一）一～三

「赤穂義士を支援した元赤穂藩医・寺井玄渓」木下勤『日本医史学雑誌』三三（一）四五～四七
「昌益医学論の位置と『四行論』について」丸山敏秋『日本医史学雑誌』三三（一）四八～五〇
「医師トーマス・B・ダンの経歴（第二報）」泉彪之助『日本医史学雑誌』三三（一）六三～六五
「解剖学者河口信任の河口家家譜」川島恂二『日本医史学雑誌』三三（一）六九～七三
「工部省お雇英医パーセル（一八四一～七七）とその業績」蒲原宏『日本医史学雑誌』三三（一）九八～一〇〇
「後藤新平『命価説』の役割」日野秀逸『日本医史学雑誌』三三（一）一〇三～一〇五
「米医D・B・シモンズ―とくに十全医院（横浜）に於ける業績並びに福沢諭吉との関係について―」荒井保男『日本医史学雑誌』三三（二）一二一～一七一
「長崎浩斎と新発見の『蘭東事始』について」津田進三『日本医史学雑誌』三三（二）二二三～二三四
「秦佐八郎の生涯と業績」秦藤樹『日本医史学雑誌』三三（三）二八一～二九三
「華岡青洲と医療のジレンマ」松木明知『日本医事新報』（三二八四）六三～六四
「G・ラモンとフォルマリン（上）G・ラモンの生い立ちと業績」海老沢功『日本医事新報』（三二八八）五九～六二
「G・ラモンとフォルマリン（下）管理者としてのラモンとその晩年」海老沢功『日本医事新報』（三二八九）六七～七〇
「長崎にて―シーボルトとジュネーバと―」石田純郎『日本医事新報』（三二九二）七〇
「水野広徳小伝」半田正文『日本医事新報』（三二九三）七〇
「新潟県黒川村の石油採掘指導をした英人医師シンクルトンの謎」蒲原宏『日本医事新報』（三三〇四）六一～六五
「赤穂義士伝外史（四）」木下勤『日本医事新報』（三三〇七）六二～六六
「続・志賀潔と昭和医箴（正）、（続）」岡崎勲『日本医事新報』（三三〇三）六四、（三三一三）六六
「野口英世のペルーにおける足跡（上）、（下）」美濃部欣平『日本医事新報』（三三一〇）五九～六一、（三三一一）六二～六四
「明治初期の官立脚気病院の設立と医学的意義（上）、（中）、（下）」山下政三『日本医事新報』（三三一六）五九～六三、（三三一七）六一～六四、（三三一八）六六～六八
「大医許浚―学績と人倫詩―」三木栄『日本医事新報』（三三一六）六四
「ジェームス・E・ガレットソンの著作の編集史的・書誌学的研究」森山徳長、長谷川正康『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二三～二四
「赤尾酔仙先生を偲ぶ」長谷川俊夫『日本歯科医史学会々誌』一四（一）三三
「大槻玄澤の学風と東洋医学への理解」大塚恭男『日本東洋医学雑誌』三七（三）二二三

「心をめぐる医学の歴史（一）ラエネックと聴診器」大村敏郎 Heart Nursing 1（一）五七～六〇
「心をめぐる医学の歴史（二）外科の守護聖人サン・コームの移植伝説」大村敏郎 Heart Nursing 1（二）一八一～一八五
「名医列伝　独創した草医三浦梅園」蔵方宏昌『ばんぶう』（七一）一七六一～七七
「名医列伝　洋方医の地位を高めた蘭方医　伊東玄朴」蔵方宏昌『ばんぶう』（七二）一六八～一七〇
「名医列伝　条約締結に尽力した蘭方医　箕作阮甫」蔵方宏昌『ばんぶう』（七三）一六八～一六九
「名医列伝　散瞳薬伝授に命をかけた眼科医　土生玄碩」蔵方宏昌『ばんぶう』（七四）一七六～一七七
「名医列伝　インク・シミ検査法の発明者　ロールシャッハ」蔵方宏昌『ばんぶう』（七五）一五六～一五七
「名医列伝　中国医学を日本化させた曲直瀬道三」蔵方宏昌『ばんぶう』（七六）一三八～一三九
「名医列伝　漢方医学の改革者　吉益東洞」蔵方宏昌『ばんぶう』（七七）一五四～一五五
「名医列伝　漢方医書の考証学を集大成　森立之」蔵方宏昌『ばんぶう』（七八）一三八～一三九
「トーマス・B・ダン―魯迅を診察したアメリカ人医師―」泉彪之助『福井県立短期大学研究紀要』（一二）八五～一〇三
「郷土の先哲医家　貝原益軒（三）」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（一）八
「郷土の先哲医家　香月牛山」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（二）一一
「郷土の先哲医家　緒方春朔」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（三）一九
「郷土の先哲医家　シーボルト門人武谷元立」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（四）八
「郷土の先哲医家　ポンペの門人たち」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（五）三
「郷土の先哲医家　宮崎安貞」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（六）六
「郷土の先哲医家　文政期福岡出身の江戸医たち」中西啓『福岡医師漢方研会会報』八（七）一一～一二
「山碕幹先生の学生時代の日誌とエルウィン・ベルツ教授との挿話について」加藤豊明『北陸医史』八（一）二六～三三
「松陰医談について」岩治勇一『北陸医史』八（一）四〇～四二
「天徳夫人の入輿に随従して来沢した神宮医　久志本常範について」加藤豊明『北陸医史』八（一）四三～五五
「福沢諭吉と医学」本岡三郎『北陸医史』八（一）三～六
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（一）忠粛と札幌」小竹英夫『北海道医報』（六四四）三〇～三一
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（二）忠粛の経歴」小竹英夫『北海道医報』（六四五）一四～一五
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（三）忠粛の医学修業」小竹英夫『北海道医報』（六四六）八～九

「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（四）箱館医学所と忠粛」小竹英夫『北海道医報』（六四七）二〇～二一
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（五）忠粛札幌へ」小竹英夫『北海道医報』（六四八）三〇～三一
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（六）忠粛とみたび柏倉姓の読み方について」小竹英夫『北海道医報』（六四九）五二～五三
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（七）忠粛の娘は神雄仁の娘か」小竹英夫『北海道医報』（六五〇）四四
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（八）忠粛と肝付海軍中将との関係」小竹英夫『北海道医報』（六五一）一六～一七
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（九）忠粛の戒名判明」小竹英夫『北海道医報』（六五三）二〇～二一
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十）忠粛の家系」小竹英夫『北海道医報』（六五四）一二～一三
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十一）忠粛の開業はいつだろうか」小竹英夫『北海道医報』（六五五）四六～四七
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十二）忠粛の長女千代と次女満津」小竹英夫『北海道医報』（六五六）三四～三五
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十三）シュンの北大病院勤務について」小竹英夫『北海道医報』（六五七）三六～三七
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十四）シュンの北大病院での職種は」小竹英夫『北海道医報』（六五八）三二～三三
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十五）香椎原仲吉の出身地」小竹英夫『北海道医報』（六五九）二八～二九
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十六）仲吉の両親はどうして聚富に住みついたのだろう」小竹英夫『北海道医報』（六六〇）二〇～二一
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十七）仲吉の札幌での最初の仕事」小竹英夫『北海道医報』（六六一）二八～二九
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十八）仲吉の札幌での第二の仕事」小竹英夫『北海道医報』（六六二）四一～四二
「柏倉忠粛のこと並びにその血族について（十九）仲吉・シュンの教職と任地」小竹英夫『北海道医報』（六六三）三二～三三
「医史跡紀行（一）北海道　高松凌雲と函館の医師たち」西来武治 Medical News（二九五）一五～一八
「医史跡紀行（二）緒方洪庵と適塾」西来武治 Medical News（二九六）一五～一八
「医史跡紀行（三）和歌山　華岡青洲の『活物窮理』」西来武治 Medical News（二九七）一五～一八
「G・ラモンの生地訪問記」海老沢功 Medical Postgraduates 二五（五）三七七～三八一
「フレミングの発見」藤島暢『ミクロスコピア』四（一）三六～三八
「C・P・ツュンベリーと日本（第一報）ツュンベリー来日の背景」高橋文、川瀬清『薬史学雑誌』二二（一）三八～四八

「シーボルトの京都滞在と荷蘭館」片桐一男『洋学史研究』(四)一～一三
「『蘭山先生日記』に見る慈斎(Ⅰ)、(Ⅱ)、(Ⅲ)」遠藤正治『慈斎研究会だより』(三六)二～六、(三七)五、(三九)四～七
「慈斎の描いたバラモンジン」井波一雄『慈斎研究会だより』(三九)二～三、七
「ボードインと私」石田純郎『横浜開港資料館館報』(一九)六
「先人の業績をしのんで　恩師大平得三先生の思い出」猿田南海雄『臨床と研究』六四(四)赤ページ
「先人の業績をしのんで　田原淳先生の心臓の研究」問田直幹『臨床と研究』六四(七)赤ページ
「先人の業績をしのんで　恩師神中正一教授を偲びて」天児民和『臨床と研究』六四(一一)赤ページ

伝　記(双)

「ビゲロー三代記—Jacob, Henry, William 日本の美術に魅せられた William S. Bigelow—医の家に育まれ仏道に帰依したその数奇な生涯—」向井紀二　F.C. Shattuck 教授追悼講演より『医学界新聞』(一七三二)八～九
「洪庵とフーフェランド」緒方富雄『けんさ』一七(一)二五～三〇
「慊堂日暦登場人物索引—静岡県地域医歯薬関係の部—」舟木茂夫『静岡県医史学懇話会会誌』(三)一〇～一七
「シーボルトと宇田川榕庵の会見」石田純郎『津山洋学資料館友の会だより』(一〇)四～五
「パリのヴァル・ド・グラスの医人達」大村敏郎『日本医史学雑誌』三三(一)六一～六三
「神奈川県における梅毒病院の医師」深瀬泰旦『日本医史学雑誌』三三(一)八四～八五
「明治前半期欧州医学留学生について—東大初の医学留学生・新藤二郎氏を中心に—」新実藤昭『日本医史学雑誌』三三(一)八六～八七
「古代日本医家伝糾誤三題」小曽戸洋『日本医史学雑誌』三三(三)三五四～三六六
「水戸徳川家の御側医」石島弘『日本医事新報』(三三一二)一三七～一三八
「浅田宗伯と熊谷謙斎」中村善紀『日本医事新報』(三三二二)五九～六三
「明治期御雇医師夫妻の生活　(二七)、(二八)ドクトル・シュルツェ夫人の手紙」トスカ・ヘゼキール『日本医事新報』(三二七四)六六～六九、(三二七七)七〇～七四
「アンブロワーズ・パーレー—戦場の救護者—」ウェルナー・P・グロコール、羽生順一(訳)『日本医事新報』(三二七八)六一～六五
「ゲーテの友人医師たち」本間邦則『日本歯科医史学会々誌』一三(四)二一四～二一七
「医学近代化と外人たち(二〇)お雇い外人教師　シュルツェ、スクリバー」酒井シヅ『臨床科学』二三(一)一〇七～一〇九
「医学近代化と外人たち(二一)サヴァティテ、マッセ、メクル

医療の中のフランス」大村敏郎『臨床科学』二三（二）二三七～二四一
「医学近代化と外人たち（二二）セジュイック、ヒル、ローレンソン」深瀬泰旦『臨床科学』二三（三）三六九～三七三
「医学近代化と外人たち（二三）来日宣教医（一）アメリカン・ボードの人びと　ベリー、ゴードン、テイラー、アダムス、スカッダー」長門谷洋治『臨床科学』二三（四）五一〇～五一六
「医学近代化と外人たち（二四）来日宣教医（二）多彩なプロテスタントの医師群像　フォールス、ラニング、コルバン、ヘール、ホイトニー」長門谷洋治『臨床科学』二三（五）六三七～六四三
「医学近代化と外人たち（二五）ニール、ゴードン、マンロー（Niel, Gordon, Munro）」桑原千代子『臨床科学』二三（六）七八六～七九〇
「医学近代化と外人たち（二六）来日医学関係者リスト（一）、（二）」宗田一、蒲原宏、長門谷洋治、石田純郎『臨床科学』二三（七）九一九～九二三、二三（八）一〇四五～一〇五〇
「錦見・青木・井上三家の系譜と交流」井上慶龍『慾斎研究会だより』（三七）二～四

伝染病史・防疫史

「中世の流行病『三日病』についての検討」中村昭『日本医史学雑誌』三三（三）三〇八～三一六
「感染症病原論の歴史的展望（第一〇、一一回）Robert Koch の日本への影響（五）、（六）」藤野恒三郎『微生物』三（一）八三～九五、三（二）二一二～二一九
「感染症病原論の歴史的展望（第一二回）北里柴三郎のペスト菌発見の業績」藤野恒三郎『微生物』三（三）三二一～三二八
「感染症病原論の歴史的展望（第一三～一五回）ウイルス初認知のころ（一）～（三）」藤野恒三郎『微生物』三（四）四三一～四三七、三（五）五三七～五四三、三（六）六四六～六四九
「明治十年代のコレラ流行とその影響」酒井シヅ『歴史と地理』（三七九）一～一七
「麻酔医スノーとコレラの疫学」三浦豊彦『労働の科学』四二（八）五四～五五

東洋医学史

「中国の消毒と滅菌の研究のあゆみ」李之桂『医科器械学』五七（二）八四～八八
「わが国における東洋医学導入の歴史（そのⅦ）江戸考証学派の業績」中村昭『神奈川総合リハビリテーションセンター紀要』（一三）七一～七六
「東洋の医学」大塚恭男『からだの科学』臨増（東洋の医学）二～四
「漢方史景　新生児沐浴と漢方薬」蔵方宏昌『漢方診療』六（三）五〇～五一
「『傷寒論』陽明三急下証第一証について」玉置英成『漢方診療』六（三）五五～五八
「古代における紫草に関する考察」野口穣一『漢方診療』六（一）六五～六七

「針灸古典入門（一七）馬王堆出土「脈書」現存する最古の経脈書」丸山敏秋『現代東洋医学』**八**（一）八七～九一
「中国伝統医学と道教（三）道教医学について」吉元昭治『東洋医学』**一五**（一）七〇～七六
「東洋医学史の再検討　中国伝統医学と道教（四）道典中の湯液療法について」吉元昭治『東洋医学』**一五**（三）三七～四四
「中国伝統医学と道教（五）『道典』と『本草』」吉元昭治『東洋医学』**一五**（四）一〇〇～一〇三
「図・表を用いた中医学による傷寒論解説（一）」白石佳正『東洋医学』**一五**（二）三六～四一
「図・表を用いた中医学による傷寒論解説（二）（第一篇）太陽病（続）」白石佳正『東洋医学』**一五**（三）五六～六一
「図・表を用いた中医学による傷寒論解説（三）（第二篇）陽明病」白石佳正『東洋医学』**一五**（四）三八～四三
「『傷寒論』成立の背景」吉元昭治『東洋医学』**一五**（二）四二～四七
「古医書における漢方の使い方（№62）三黄瀉心湯（その五）」菊谷豊彦、部谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』**九七**（一）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№63、64）黄連解毒湯（その一）～（その三）」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九七**（二）、**九七**（三）、**九七**（四）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№65、66）黄連湯（その一）、（その二）」大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人『日本医師会雑誌』**九七**（五）、**九七**（六）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№67、68）桂枝湯（その一）、（その二）」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』**九七**（六）、**九七**（七）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№68、69）桂枝加芍薬湯（その一）、（その二）」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』**九七**（七）、**九七**（八）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№69、70）桂枝加芍薬大黄湯（その一）、（その二）」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』**九七**（八）、**九七**（九）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№70、71）桂枝加竜骨牡蛎湯（その一）、（その二）」菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤『日本医師会雑誌』**九六**（一〇）、**九七**（一〇）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№71、72）桂枝加朮附湯（その一）、（その二）」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九七**（一〇）、**九七**（一一）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№73、74）当帰四逆加呉茱萸生姜湯（その一）、（その二）」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九七**（一二）、**九八**（一）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№74～76）小建中湯（その一）～（その三）」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九八**（一）、**九八**（二）、**九八**（三）カラー図説
「古医書における漢方の使い方（№77、78）当帰建中湯（その一）、

(その二)」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』**九八**(四)カラー図説
「古医書における漢方の使い方(№78～80)大建中湯 (その一)～(その三)」山田光胤、菊谷豊彦、長谷川弥人、大塚恭男『日本医師会雑誌』**九八**(五)、**九八**(六)、**九八**(七)カラー図説
「古医書における漢方の使い方(№81、82)芍薬甘草湯(その一)、(その二)」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九八**(八)、**九八**(九)カラー図説
「古医書における漢方の使い方(№82～84)麻黄湯 (その一)～(その三)」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九八**(九)、**九八**(一一)、**九八**(一二)カラー図説
「古医書における漢方の使い方(№84、85)麻杏甘石湯(その一)、(その二)」長谷川弥人、大塚恭男、山田光胤、菊谷豊彦『日本医師会雑誌』**九八**(一二)、**九八**(一三)カラー図説
「馬王堆出土『陰陽脈死候』の研究」遠藤次郎『日本医史学雑誌』**三三**(一)二〇～二二
「中国医学と道教Ⅶ、黄庭経と身神」吉元昭治『日本医史学雑誌』**三三**(一)二三～二五
「『保嬰三方』について」広田曄子『日本医史学雑誌』**三三**(一)四一～四三
「黄会友の「神仙秘法」について—高嶺徳明、伊佐敷道与の秘術に関連して—」松木明知『日本医史学雑誌』**三三**(一)四三～四五
「『六腑』『気街』『玄武』について」遠藤次郎『日本東洋医学雑誌』**三七**(四)三三八
「三尸説 中医学と道教との関係について」吉元昭治『日本東洋医学雑誌』**三七**(四)三八二
「東西両医学融合の必要条件と万病の一毒」河野裕行『日本東洋医学雑誌』**三七**(四)三八二～三八三
「東洋医学よりみた食物(第四報)」安保純郎『日本東洋医学雑誌』**三七**(四)三八三

皮膚科史

「土肥慶蔵『日本皮膚病黴毒図譜』刊行の意義」長門谷洋治『日本医史学雑誌』**三三**(一)一〇七～一〇九
「ムラージュ」長門谷洋治『日本医事新報』(三二七二)九九～一〇〇

病院史

「上田市医師会附属医学史料館報(一八二)～(一八五)柳沢病院の記録(一)～(四)」柳沢文秋『上田市医師会報』**一七**(九)二一～二二、**一七**(一〇)一五～一六、**一七**(一一)一二、**一七**(一二)一七
「大阪市立桃山病院開院百年を迎えて」青木隆一『感染・炎症・免疫』**一七**(三)二一九～二二七
「日本における病院内医薬分業の始まりは大阪府立病院から(明治六年)」中室嘉祐『日本医史学雑誌』**三三**(一)八八～九〇
「アムステルダム植民地博覧会(一八八三)医学部門に参加した日本とその展示品の日本四一病院見取図について」石田純郎、H・ボイケルス『日本医史学雑誌』**三三**(一)九五～九七

「戦中戦後大阪桃山病院の内と外」水原完『日本医事新報』
（三二九三）六四～六七

病跡学

「カルテ人間模様　正岡子規（その一）～（その四）」立川昭二『東洋薬事報』二八（一二）、二九（一～三）各一八～二〇
「カルテ人間模様　中江兆民（その一）～（その三）」立川昭二『東洋薬事報』二八（九～一一）各一八～二〇
「カルテ人関模様　樋口一葉（その一）～（その五）」立川昭二『東洋薬事報』二八（四～八）各一八～二〇
「良寛における病いの位置」立川昭二『北里大学教養部紀要』（一一）一九三～二一八
「秋成における病いの位置」立川昭二『北里大学教養部紀要』（一二）一一五～一四二
「多聞院英俊の病跡—梅毒を中心として—」中村昭『日本医史学雑誌』三三（四）四七七～四九二
「鈴木主税の死因は腸チフスか？」白崎昭一郎『日本医事新報』（三二九一）六四～六五

病理学史

「E・ベルツの病理各論講義について」安井広『日本医史学雑誌』三三（一）九三～九五
「通俗病理問答（明治二十五年十一月刊）の内容」吉田直人、古城由美子、清沢美智子、谷津三雄『日本歯科医史学会々誌』一四（一）二一～二二

風俗史

「道具が語る生活史　楊枝（ようじ）」小泉和子『日本の歴史』（週刊朝日百科）八二（六一〇）一六一
「病気に効く石造物（三）成田市の歯神様」川村純一『千葉医師会雑誌』三九（五）三八四～三八六
「西欧の育児習俗スワドリング（Swaddling）からの教訓」大野晏且『東京学芸大学附属学校研究紀要』第一四集　九九～一一六
「「三伯稲荷神社」について」森納『日本医史学雑誌』三三（一）五四～五五
「日本の祭祀（一）迎春の祭祀」宗田一 Neue Informa 一一（一）二五～三一
「日本の祭祀（二）節分と追儺」宗田一 Neue Informa 一一（二）二七～三三
「日本の祭祀（三）雛流しと曲水宴」宗田一 Neue Informa 一一（三）二五～三一
「日本の祭祀（四）鎮花祭」宗田一 Neue Informa 一一（四）二五～三一
「津軽農家における農耕・医薬信仰の思想」園部昌良『北陸医史』八（一）二〇

仏教医学史

「インド学仏教学論集」中田直道『高崎直道博士還暦記念論集』一八三～一九九
「仏典に伝えられる医術を構成する四部門」中田直道『鶴見大学紀要』（二五）第四部　四九～五八

放射線医学史

「放射線医学史　心血管カテーテル術を推進した人々」玉木正男『画像診断』七（八）九五八～九五九

「放射線医学史　Interventional Radiology」玉木正男『画像診断』七（一〇）一二〇二～一二〇三

本草学・博物学史

「『明月記』にみえる苧について」杉本茂春『醫譚』（五五）三四二～三四二五

「薬物学から物産研究へ」矢部一郎『日本の歴史』（週刊朝日百科）八二（六一〇）一三二～一三六

「源内の『物類』の世界」杉本つとむ『日本の歴史』（週刊朝日百科）八二（六一〇）一三八～一四二

「『地』に生きる方策―中国の本草学―」森村謙一『日本の歴史』（週刊朝日百科）八二（六一〇）一四三

「本草家の西洋植物学への関心」矢部一郎『日本医史学雑誌』三三（一）八〇～八一

「『明月記』にみえる苧について」杉本茂春『日本歯科医史学会々誌』一三（三）一四五～一四七

「蜆の本草学的研究　貝類和漢薬の生薬学的研究（第一七報）」浜田善利、難波恒雄『薬史学雑誌』二二（一）四九～五七

麻酔学史

「我が国における麻酔の発達」渡部美種『秋田医学』一三（四）四六九～四七九

「津軽における最初の全身麻酔―藩医三上道隆の事績―」松木明知『日本医史学雑誌』三三（二）二〇三～二一七

「近代麻酔学の歴史的基盤―一神経病理学者の視点より―」向井紀二『麻酔』三六（一〇）一四九〇～一四九七、三六（一二）二〇四七～二〇四八

門人録

「坪井日習堂塾門人録断簡」蒲原宏『医譚』（七二）五～八

薬学史

「非ステロイド性抗炎症鎮痛剤の歴史」五十嵐三都男『大分温泉調査研究会報告』一四（一二）八四一～八四二

「〈資料紹介〉製薬売弘め訴訟案文」宗田一、末中哲夫『啓迪』（五）二〇～二三

「名古屋藩における薬用人参の栽培について」安江政一『日本医史学雑誌』三三（一）五六～五八

「名古屋藩における薬用人参の栽培」安江政一『日本医史学雑誌』三三（三）三二八～三三三

「ルドルフ・レーマンと京都の薬学事始」三好卯三郎『薬史学雑誌』二二（一）一～三

「京の薬と生活」浦田耕作『薬史学雑誌』二二（一）四～六

「京都とサントニン国産化―市野瀬潜を回顧して―」鈴鹿紀『薬史学雑誌』二二（一）七～一〇

「内藤記念くすり博物館収蔵資料に見る京と薬」青木允夫『薬史学雑誌』二二（一）一一

「海軍薬剤官の変遷」喜谷市郎右衛門『薬史学雑誌』二二（一）一六～二一

「日本薬局方に見られた酸化亜鉛（亜鉛華）製剤の変遷」松本仁人、山田光男『薬史学雑誌』二二（一）二二～二九
「医薬品包装の変遷」杉原正泰、斎藤明美『薬史学雑誌』二二（二）五九～六五
「肥後細川藩の茶碗山の御薬園について」浜田善利『薬史学雑誌』二二（二）六六～七一
「日本薬局方に見られたカンフル含有製剤の変遷」山田光男『薬史学雑誌』二二（二）七二～七六
「『大黄私考』と『日本大黄考』について」安江政一『慈斎研究会だより』（三八）二～七

蘭学史

「蘭学の名門越前大野」岩治勇一『くすりゅう』（一六）二八
「大槻玄沢『蘭畹摘芳』について」宗田一『日本医史学雑誌』三三（一）七三～七六
「長崎浩斎著『蘭学解嘲』と小石元瑞について」津田進三『日本医史学雑誌』三三（一）七七～七九
「長崎浩斎と新発見の『蘭東事始』について」津田進三『日本医史学雑誌』三三（二）二三七
「蘭学史より観た福井県のフランス医学について」岩治勇一『はこぶね』（福井医科大学附属図書館報）三（三）三～一一
「大野藩洋学館旧蔵のフランス系蘭書について」岩治勇一『福井県医師会だより』（三〇一）一六～一七
「オランダ一八六五年医務関係法規と山崎文庫『和蘭―医務条令・製薬開業制度―』（その一）オランダ一八六五年法第五八号と山崎文庫『医務条令』」川瀬清『薬史学雑誌』二二（二）七七～八五

リハビリテーション関係史

「リハビリテーション医学理念の成立　歴史的回顧」砂原茂一『総合リハビリテーション』一五（四）二三七～二四二
「障害児教育の歴史」小鴨英夫『総合リハビリテーション』一五（四）二五一～二五六
「職業リハビリテーションの歴史」松井亮輔『総合リハビリテーション』一五（四）二五七～二六一
「社会リハビリテーションの発達史」小島蓉子『総合リハビリテーション』一五（四）二六三～二六八
「リハビリテーション医学小史」明石謙『総合リハビリテーション』一五（四）二四三～二四九
「装具治療の歴史　脳性麻痺児の下肢装具を中心に」坂井和夫『日本義肢装具会会誌』三（特別）一五～二二
「フレンケルの運動」武富由雄『理学療法』四（二）九四
「日本のリハビリテーション医療のあゆみ」服部一郎『理学療法学』一四（六）四二七～四四三
「長崎の理学療法史」中西啓『リハビリテーション医学』二四（一）一一～一三
「日本の障害者の歴史―現代の視点から―」花田春兆『リハビリテーション研究』（五四）二～八

その他

「上田市医師会附属医学史料館報（一七四）～（一八一）、回想

記 (二四)～(三一)、千葉医大第二内科在局の頃 (一六)～(二三)」柳沢文秋『上田市医師会報』**一七**(一)一六～一八、**一七**(二)二五～二七、**一七**(三)一七、**一七**(四)一四～一五、**一七**(五)一五、**一七**(六)一四～一五、**一七**(七)一五、**一七**(八)一三～一四
「バッケン生体電気博物館について」作田学『科学医学資料研究』(一五七)四～七
「癌研究の思い出」九島勝司『癌治療・今日と明日』**九**(一)一～三
「癌研究の思い出」井口潔『癌治療・今日と明日』**九**(二)一～三
「癌研究の思い出」影山圭三『癌治療・今日と明日』**九**(四)一～四
「癌研究の思い出」三浦義彰『癌治療・今日と明日』**九**(五)一～三
「安心是薬更無方 医療と教育のある共通点について」原俊之『教育と医学』**三五**(八)八〇九～八一一
「医療の歴史(二)『現代医学概論』より」高橋晥正『薬のひろば』(八九)四四～五〇
「京都駆黴院の変遷について」永利満雄『啓迪』(五)一四～一九
「創造的研究と仮説」山村雄一『実験医学』**五**(三)二三七～二四八
「表紙のことば アレキサンドロス大王の誕生」酒井シヅ『手術』**四一**(一)二八
「表紙のことば マンドゴラ」酒井シヅ『手術』**四一**(二)一四四
「表紙のことば 瀉血の場面が描かれた壺」酒井シヅ『手術』**四一**(三)三〇九
「表紙のことば 皮膚病を治すキリスト」酒井シヅ『手術』**四一**(四)四二五
「表紙のことば エジプトの外科道具」酒井シヅ『手術』**四一**(五)五八〇
「表紙のことば Rolando の外科書」酒井シヅ『手術』**四一**(七)一〇〇七
「表紙のことば 医者(Physician)と外科医(surgeon)」酒井シヅ『手術』**四一**(八)一一六八
「表紙のことば フランスの外科医会」酒井シヅ『手術』**四一**(九)一三四五
「表紙のことば 帝王切開」酒井シヅ『手術』**四一**(一〇)一四三七
「表紙のことば 瀉血」酒井シヅ『手術』**四一**(一一)一七一〇
「表紙のことば 償えぬ喪失」酒井シヅ『手術』**四一**(一二)一八七五
「表紙のことば Samuel Jean Pozzi(一八四六～一九一八)」酒井シヅ『手術』**四一**(一三)二〇〇七
「ヒルデガルト紀行 中世、一尼僧の医学をめぐって」真壁伍郎『綜合看護』**二一**(一)七～一七
「救急業務の回顧」岡村正明『日救急医会関東誌』**八**(一)二九～三一

「ヒポクラテスの木と体験学習」寺畑喜朔『日本医史学雑誌』三三（一）五八～六〇
「「医師」は資格名か職業名か？」石田純郎『日本医事新報』（三二七二）一二三
「ライン河のほとりで」石田純郎『日本医事新報』（三二七九）六二～六三
「長崎にて―シーボルトとジュネーバと」石田純郎『日本医事新報』（三二九二）七〇～
「医療博物館への招待（三一）函館市立函館博物館五稜郭分館」『日本医事新報』（三三一〇）六七
「医古文の読み方」石田秀実『中医臨床』八（二）一九八～二〇〇、八（三）三一〇～三一三
「歴史巷談　尾張古武士の後裔たち」中西淳朗『保団連』（二五五）七四～七六
「医学史に登場する動物（七）ウィリアム・ハーヴィ（その二）」酒井シヅ『ラボラトリーアニマル』四（一）五九
「医学史に登場する動物（八）リンパ系の発見に導いた犬」酒井シヅ『ラボラトリーアニマル』四（三）六〇
「医学史に登場する動物（九）カエルと血液循環」酒井シヅ『ラボラトリーアニマル』四（五）五二
「Edward Jenner の歴史的名著を読んで」倉恒匡徳『臨床と研究』六四（七）青ページ
「労働科学研究所所蔵のフェルヴォルン文庫について　序説」小沼十寸穂『労働科学』六三（八）四一一～四二二

中国語文献

「从《中华医史杂志》看我国的医史研究」陆肇基『中華醫史雜誌』一七（一）一～七
「明代军医组织的特点」奎纯『中華醫史雜誌』一七（一）八～一〇
「明清时期徽州商业的繁荣和新安医学的崛起」刘时觉『中華醫史雜誌』一七（一）一一～一三
「许叔微的生平和著作」陈克正『中華醫史雜誌』一七（一）一四～一七
「唐宗海生卒新考」陈先赋『中華醫史雜誌』一七（一）一八～二〇
「晚清名医柳宝诒及其学术成就」黄煌『中華醫史雜誌』一七（一）二一～二三
「王清任学有渊源」刘美文『中華醫史雜誌』一七（一）二四～二五
「张山雷年谱暨生平考证」叶显纯『中華醫史雜誌』一七（一）二六～三一
「李中立及其《本草原始》的考察」郑金生『中華醫史雜誌』一七（一）三二～三四
「《海药本草》的考察」尚志钧『中華醫史雜誌』一七（一）三五～三七
「黄元御著作之聚散及版本」郭君双『中華醫史雜誌』一七（一）三八～四一
「《本草纲目》医学学术思想」陈如泉『中華醫史雜誌』一七（一）四二～四五
「《五十二病方》中的儿科内容小析」陈达理『中華醫史雜誌』一七（一）四六～四七

「高武《针灸节要》和《针灸聚英》的版本問題」吴臾、李鼎『中華醫史雜誌』一七（一）四八～五〇
「敦煌医学文献论著目录」王进玉『中華醫史雜誌』一七（一）五一～五三
「《汉谟拉比法典》及其所记医药史事」郑怀林『中華醫史雜誌』一七（一）五四～五六
「试论日本古方派形成」顾旭平、柯雪帆『中華醫史雜誌』一七（一）五七～五九
「辽代契丹族医学史事简述」于永敏『中華醫史雜誌』一七（一）六〇～六三
「国际医史动态中国医学史的研究在联邦德国」文树德『中華醫史雜誌』一七（一）六四
「《回回药方》考略」高晓山『中華醫史雜誌』一七（二）六五～六七
「"《本草经》佚文"取舍刍议」梁茂新『中華醫史雜誌』一七（二）六八～七〇
「《小品方》残卷简介」任旭『中華醫史雜誌』一七（二）七一～七三
「陈延之与《小品方》研究的新进展」廖育群『中華醫史雜誌』一七（二）七四～七五
「华陀"麻沸散"古读"麻痺散"考」宋子然『中華醫史雜誌』一七（二）七六～七八
「天人关系论与《黄帝内经》」东离『中華醫史雜誌』一七（二）七九～八三
「医史研究方法刍议」林功铮『中華醫史雜誌』一七（二）八四～八七
「叶天士故居初考」王仁宇、钱勤学、张孝芳『中華醫史雜誌』一七（二）八八～九〇
「我国古代眼科预防思想史」寇崇琇、周维梧『中華醫史雜誌』一七（二）九一～九四
「武之望生平与史迹調查」姜亚洲『中華醫史雜誌』一七（二）九五～九八
「四川国医学院史」孔祥序『中華醫史雜誌』一七（二）九九～一〇二
「抗日战争时期贵州省医药卫生概况」罗克聪『中華醫史雜誌』一七（二）一〇三～一〇六
「本世纪二〇～四〇年代国人对中药的研究」陈新谦『中華醫史雜誌』一七（二）一〇七～一一三
「对《子午流注学说的发端与形成》一文的商榷」李磊『中華醫史雜誌』一七（二）一一四～一一五
「国外古代护理史」虞孝国、程之范『中華醫史雜誌』一七（二）一一六～一二二
「现代组织学的奠基者—纪念普金叶诞辰二〇〇周年」刘晓村『中華醫史雜誌』一七（二）一二三～一二五
「藏医藏药学的形成与发展简述」强巴赤烈『中華醫史雜誌』一七（二）一二六～一二八
「回顾五〇年来我国的世界医学史」程之范『中華醫史雜誌』一七（三）一三一～一三三

「发扬优良传统并拓医史研究领域」李经纬『中華醫史雜誌』一七（三）一三四～一三六
「一个值得并拓的医史研究领域—东西方比较医学史研究」马堪温『中華醫史雜誌』一七（三）一三七～一三八
「少数民族医学史」蔡景峰『中華醫史雜誌』一七（三）一三九～一四一
「纪念我国首届医史高级师资进修班三〇周年」姒元翼『中華醫史雜誌』一七（三）一四二～一四四
「医史园地悉心耕耘五〇年—著名医史学家正王民」傅维康『中華醫史雜誌』一七（三）一四五～一四八
「从《傅青主女科》看中医妇科临床思维发展的几个特点」张思真、张文『中華醫史雜誌』一七（三）一四九～一五三
「儒学与中国医学的发展」鄢良、张志斌『中華醫史雜誌』一七（三）一五四～一五九
「络脉诊法考」靳士英『中華醫史雜誌』一七(三)一六〇～一六三
「火葬是中华民族自古就有的卫生习俗」孙溥泉、宋大仁、黄晖、张立『中華醫史雜誌』一七（三）一六四～一六七
「陕日宁边区的保健药社和卫生合作社」龚纯、梁烈庭『中華醫史雜誌』一七（三）一六八～一七二
「国民党政府及台湾当局的中医考试」赵正山『中華醫史雜誌』一七（三）一七三～一七五
「台湾医药卫生（一九四五年前）」肖林榕、杨瑞英『中華醫史雜誌』一七（三）一七六～一七九
「欧州中世纪的护理」虞孝国、程之范『中華醫史雜誌』一七(三)一八〇～一八二
「四川德昌金沙傈僳族医学的初步考察」郭成圩『中華醫史雜誌』一七（三）一八三～一八六
「沈括和李时珍对〃秋石〃的理论阐释」孟乃昌『中華醫史雜誌』一七（三）一八七
「解放前山西的中医事业」樊玉琦、平兆愈、宋志萍『中華醫史雜誌』一七（四）一九三～一九五
「王清任是否中西医汇通派」何爱华『中華醫史雜誌』一七（四）一九六～一九八
「近代中国最早的针灸期刊《针灸杂志》」张遂康、江一平『中華醫史雜誌』一七（四）一九九～二〇一
「对〃我国断肢再植实验研究成功的意义〃—文质疑」屠并元、赵定麟『中華醫史雜誌』一七（四）二〇二～二〇三
「《周礼》所载医官与医学的时代特征」徐西雁、郭政凯『中華醫史雜誌』一七（四）二〇四～二〇六
「中医医案发展简史」高春媛『中華醫史雜誌』一七(四)二〇七～二一一
「内分泌学发展史略」徐维廉『中華醫史雜誌』一七(四)二一二～二一六
「闌尾炎的历史」吴亭『中華醫史雜誌』一七(四)二一七～二二〇
「藏医药的发展概况」张兴乾、张辉煊『中華醫史雜誌』一七(四)二二一～二二四
「对烟草传入及药用历史的考证」郝近大『中華醫史雜誌』一七(四)二二五～二二八

「运气七篇考辨」王树芬『中華醫史雜誌』一七（四）一二九～一一三三
「《乡药集成方》及其引书考」崔秀汉『中華醫史雜誌』一七（四）一二三四～一二四〇
「《吳普本草》成书年代的考察」尚志钧『中華醫史雜誌』一七（四）一二四一
「《足臂十一脉灸经》浅探」陈国清『中華醫史雜誌』一七（四）一二四二～一二四七

欧文文献

EYLER, John M.: Scarlet Fever and Confinement; The Edwardian Debate over Isolation Hospitals. BULL. HIST. MED. 61(1): 1～24

THIELMAN, Samuel B.: Madness and Medicine; Trends in American Medical Therapeutics for Insanity, 1820～1860. BULL. HIST. MED. 61(1): 25～46

OBERHELMAN, Steven B.: The Diagnostic Dream in Ancient Medical Theory and Practice. BULL. HIST. MED. 61(1): 47～60

COOK, Harold J.: The Society of Chemical Physicians, the New Philosophy, and the Restoration Court. BULL. HIST. MED. 61(1): 61～77

McBRIDE, David: The Henry Phipps Institute, 1903～1937; Pioneering Tuberculosis Work with an Urban Minority. BULL. HIST. MED. 61(1): 78～97

BROWN, Theodore M.: Alan Gregg and the Rockefeller Foundation's Support of Franz Alexander's Psychosomatic Research. BULL. HIST. MED. 61(2): 155～182

GARCIA-BALLESTER, Luis: Medical Science in Thirteenth Century Castile: Problems and Prospects. BULL. HIST. MED. 61(2): 183～202

TUCHMAN, Arleen: Experimental Physiology, Medical Reform, and the Politics of Education at the University of Heidelberg; A Case Study. BULL. HIST. MED. 61(2): 203～215

LIEBENAU, Jonathan M.: Public Health and the Production and Use of Diphtheria Antitoxin in Philadelphia.: BULL. HIST. MED. 61(2): 216～236

THIJSSEN, J.M.: Notes and Comments, Twins as Monsters; Albertus Magnus's Theory of the Generation of Twins and its philosophical Context. BULL. HIST. MED. 61(3): 237～246

LAWRENCE, Christopher: Graduate Education in the History of Medicine; Great Britain. BULL. HIST. MED. 61(2):247～252

COLEMAN, William: Koch's Comma Bacillus; The First Year. BULL. HIST. MED. 61(3): 315～342

McTAVISH, Jan R.: What's in a Name? Aspirin and the American Medical Association. BULL. HIST. MED. 61(3): 343～366

DOLS, Michael W.: The Origins of the Islamic Hospital: Myth and Reality. BULL. HIST. MED. 61(3): 367~390

WEINDLING, Paul: Medical Practice in Imperial Berlin; The Carebook of Alfred Grotjahn. BULL. HIST. MED. 61(3): 391~410

JARCHO, Saul.: A History of Semiterian Fever. BULL. HIST. MED. 61(3): 411~430

ATWATER, Edward C.: American Association for the History of Medicine; Report of the sixteith Annual Meeting. BULL. HIST. MED. 61(3): 431~441

SABITT, Todd L.: Entering a White Profession; Black Physicians in the New South, 1880~1920. BULL. HIST. MED. 61(4): 507~540

WEISZ Georg: The Posthumous Laennec: Creating a Modern Medical Hero, 1826~1870. BULL. HIST. MED. 61(4): 541~562

RILEY James C.: Ill health during the English Mortality Decline: The Friendly Societies' Experience. BULL. HIST. MED. 61(4): 563~588

HANSON, Ann Ellis: The Eight Months' Child and the Etiquette of Birth; Obsit Omen! BULL. HIST. MED. 61(4): 589~602

MORE, Ellen: The Blackwell Medical Society and the Professionalization of Women Physicians. BULL. HIST. MED. 61(4): 603~628

HILDRETH, Martha L.: Medical Rivalries and Medical Politics in France; The Physicians' Union Movement and the Medical Assistance Law of 1893. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(1): 5~29

YOUNG, James Harvey: From Oysters to After-Dinner Mints; The Role of the Early Food and Drug Inspector. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(1): 30~53

FLAUMENHAFT, Eugene and FLAUMENHAFT, Carol: Four Books that Changed Nursing. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(1): 54~72

TINTNER, Adline R. and JANOWITZ, Henry D.: Inoperable Cancer: An Alternate Diagnosis for Milly Theale's Illness. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(1): 73~76

CARMICHAEL, Ann G. and SILVERSTEIN, Arthur M.: Smallpox in Europe before the Seventeenth Century; Virulent Killer or Benign Disease? J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(2): 147~168

GILLETT, Mary C.:Medical Care and Evacuation during the Philippine Insurrection, 1899~1901. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(2): 169~185

DOLEV, Eran: A Gland in Search of a Function; The Parathyroid Glands and the Explanations of Tetany, 1903~1926. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(2): 186~198

HARDEN, Victoria A.: Koch's Postulates and the Etiology of Rickettsial Diseases. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42 (3): 277～295

TIGERTT, William D.: A 1759 Spotted Fever Epidemic in North Carolina. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(3):296～304

FLYNN, George Q.: American Medicine and Selective Service in World War Ⅱ. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(3): 305～326

BEACH, Thomas G.: The History of Alzheimer's Disease; Three Debates. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(3): 327～349

GROB. Gerald N.: The Forging of Mental Health Policy in America; World War Ⅱ to New Frontier. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(4): 410～446

FOX, Daniel M.: The Politics of the NIH Extramural Program, 1937～1950. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(4): 447～466

FICK, Gray R.: Henry Dale's Involvement in the Verification and Acceptance of the Theory of Neurochemical Transmission; A Lady in Hiding. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(4): 467～485

McTAVISH, Jan S.: Antipyretic Treatment and Typhoid Fever; 1860～1900. J. HIST. MED. ALLIED. SCI. 42(4): 486～506

DOLS, Michael W.: Insanity and its Treatment in Islamic Society. MED. HIST. 31(1): 1～14

HENRY, John: Medicine and Pneumatology; Henry More, Richard Baxter, and Francis Glisson's Treatise on the Energetic Nature of Substance. MED. HIST. 31(1): 15～40

WAINWRIGHT, Milton: The History of the Therapeutic Use of Crude Penicillin. MED. HIST. 31(1): 41～50

DWORK, Deborah: The Milk Option; An Aspect of the History of the Infant Welfare Movement in England 1898～1908. MED. HIST. 31(1): 51～69

GUERRIN, Anita: Archibald Pitcairne and Newtonian Medicine. MED. HIST. 31(1): 70～83

DEWEY, Horace W.: Some Perceptions of Mental Disorder in Pre-Petrine Russia. MED. HIST. 31(1): 84～99

STOTT, Rosallie: Health and Virtue; or, How to keep out of Harm's Way. Lectures on Pathology and Therapeutics by William Cullen C. 1770. MED. HIST. 31(2): 123～142

KASS, Amalie M.: The Syrian Medical Aid Association; British Philanthropy in the Near East. MED. HIST. 31(2): 143～159

McIVOR, A.J.: Manual Work, Technology, and Industrial Health, 1918～39. MED. HIST. 31(2): 160～189

RICE, Gillian: The Bell-Magendie-Walker Controversy. MED.

HIST. 31(2): 190～200

BIRKEN, William: The Social Problem of the English Physician in the Early Seventeenth Century. MED. HIST. 31(2): 201～211

WITKOWSKI, J.A.: Optimistic Analysis-chemical embryology in Cambridge 1920～42. MED. HIST. 31(3): 247～268

KUNITZ, Stephen J.: Making a Long Story Short; a Note on Men's Height and Mortality in England from the First through the Nineteenth Centuries. MED. HIST. 31(3): 269～280

HIDDINGA, Anja: Obstetrical Research in the Netherlands in the Nineteenth Century. MED. HIST. 31(3): 281～305

COOTER, Roger: The Meaning of Fractures; Orthopaedics and the Reform of British Hospitals in the Inter-war Period. MED. HIST. 31(3): 306～332

LANE, Joan: A Provincial Surgeon and His Obstetric Practice; Thomas W. Jones of Henley-in-Arden, 1764～1846. MED. HIST. 31(3): 333～348

WILSON, John B.: A Surgeon's Private Practice in the Nineteenth Century. MED. HIST. 31(3): 349～353

LEWIS, Milton and MACLEOD, Roy: A Workingman's Paradise? Reflections or Urban Mortality in Coronial Australia. 1860～1900. MED. HIST. 31(4): 387～402

WILSON, Leonard G.: The Early Recognition of Streptococci as Causes of Disease. MED. HIST. 31(4): 403～414

MARLAND, Hilary: The Medical Activities of Mid-nineteenth-century Chemists and Druggists, with Special Reference to Wakefield and Huddersfield. MED. HIST. 31(4): 415～439

IMHOF, Arthur: The Extended Life Course. MED. HIST. 31(4): 440～449

BAKER, R.A. and BAYLISS, R.A.: William John Ritchie Simpson (1855～1931); Public Health and Tropical Medicine. MED. HIST. 31(4): 450～465

SHEPPARD. Julia: Illustrations from the Wellcome Institute Liberary. MED. HIST. 31(4): 466～471

FORD, John M.T.: The Weeks Family Letters; A Medical Student at St. Thomas's Hospital, 1801～1802. MED. HIST. Supplement No. 7

EAMON, William and KEIL, Gundolf: "Plebs amat empirica": Nicholas of Poland and His Critique of the Mediaeval, Medical Establishment. Sudhoff Archiv 71, 180～196

HILDEBRAND, Reinhard: Bijoux anatomiques - Die mikroskopischen Injektion spräparate des Wiener Anatomen Joseph Hyrtl (1810～1894). Sudhoff Archiv 71, 1～11

LEISER, Gary and DOLS, Michael: Evliyā-Chelebi's Description of Medicine in Seventeenth-Century Egypt. Part I; Introduction. Sudhoff Archiv 71, 197～216

SCHÄFFER, Johann: Das Corpus Hippiatricorum Graecoru-

mein umstrittenes Erbe. Sudhoff Archiv 71, 217～229

WEBER, Matthias M.: Die "Opiumkur" in der Psychiatrie; Ein Beitrag zur Geschite der Psychopharmakotherapie. Sudhoff Archiv 71, 31～61

BOOT, Christine: Neufunde zum 'siebenkammerigen Uterus'. Sudhoff Archiv 71, 233～235

GROSS, Hildemarie: Zur Repräsentanz von Ortolfs "Arzneibuch" bei Anton Trutmann. Sudhoff Archiv 71, 102～105

LOCHER, Wolfgang: Neue Erkenntnisse zum Geburtsdatum Franz Reisingers. Sudhoff Archiv 71, 96～99

NUTTON, Vivian: Numisianus and Galen. Sudhoff Archiv 71, 235～239